

上田市都市計画マスタープラン改定(案)【資料編】

－ 上田市の都市計画に関する基本的な方針 －

2023(令和5)年 11 月時点

長野県上田市

目 次

1. 地勢等

1-1 位置・地勢	1
1-2 気象	2

2. 人口等関連

2-1 人口の推移	3
2-2 人口動態	5
2-3 地区別人口等	6
2-4 将来人口の推計・現状との比較	12
2-5 人口集中地区(DID)の変遷	13
2-6 道路・交通	15
2-7 通勤・通学	18

3. 産業関連

3-1 産業別就業人口	19
3-2 商業	20
3-3 工業	20

4. 土地利用関連

4-1 土地利用	21
4-2 農地転用	23
4-3 開発行為	24
4-4 地価の動向	26
4-5 空き家	28
4-6 新築動向	31

5. 都市施設

5-1 面整備	35
5-2 都市計画道路	36
5-3 都市公園	37
5-4 上下水道	38

6. 景観

6-1 上田市景観計画	40
6-2 景観づくり協定	43
6-3 街なみ環境整備	44
6-4 景観ウォッチング	45

7. 歴史・文化

7-1 歴史・文化	46
7-2 指定文化財	47
7-3 日本遺産	48

8. 災害関連

8-1 災害の状況	49
8-2 災害リスク(土砂災害(特別)区域・浸水想定区域)	52

9. 財政関連

9-1 財政状況	53
9-2 財政力	54
9-3 財政状況の比較	55

10. 上位関連計画

10-1 上位計画	56
10-2 関連計画	59

11. その他関連資料

11-1 策定経緯	76
11-2 上田市都市計画審議会委員名簿	77

1. 地勢等

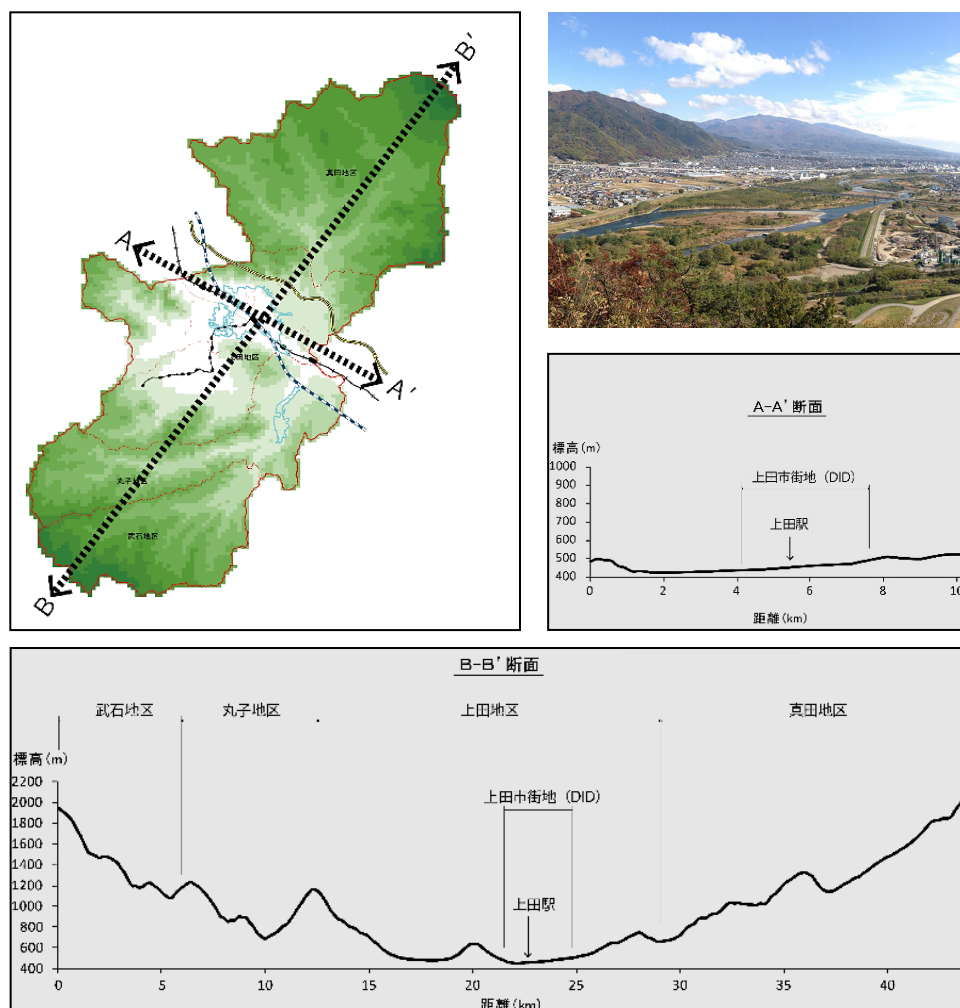
1-1 位置・地勢

上田市は、長野県の中央からやや東北部に位置し、県庁所在都市である長野市から約40km、東京から約190kmに位置し、面積は552.04km²です。市域は、松本市、須坂市、長野市、千曲市、東御市、長和町、青木村、坂城町、立科町、筑北村、嬬恋村（群馬県）と接しています。

北部は菅平高原を中心とした、四阿山（2,354m）、根子岳（2,207m）の他、烏帽子岳（2,066m）などの2,000m級の山、南部は美ヶ原高原を中心とした、王ヶ頭（2,034m）、物見石山（1,985m）、武石峰（1,973m）などがあります。また、塩田地区の南部には、独鈷山（1,266m）、本市中心部の北側には、太郎山（1,164m）などがあります。

本市は全域が信濃川水系に属し、本流である千曲川の支流の主な水系としては以下が挙げられます。

- ・ 神川水系：市域北部を南流し、岩下地区付近で千曲川に合流する。傍陽川などを支流。
- ・ 浦野川水系：市域中央部の川西地区、塩田地区を流域とし、小泉地区付近で千曲川に合流する。産川、湯川などを支流。
- ・ 依田川水系：市域南部の丸子地区、武石地区を流域として北流し、生田地区付近で千曲川に合流する。依田川のほか、内村川、武石川などを支流。

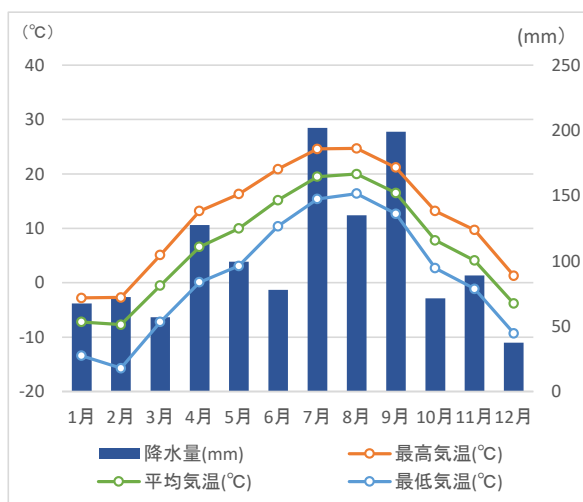
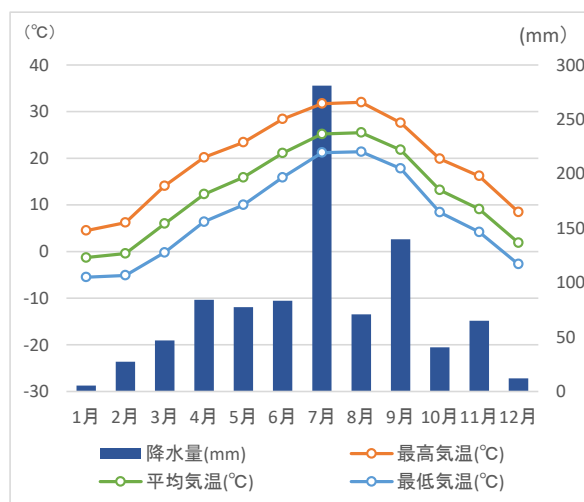


[図・上田市の地形]

1-2 気象

2022（令和4）年における気象庁データによる上田地域の年平均気温は12.5℃で、年の平均最高気温で最も高いのは8月の32℃、平均最低気温で最も低いのは1月の-5.5℃であり、昼夜及び冬夏の気温の差が大きい典型的な内陸性気候です。また、年間降水量が約900mmと全国でも有数の少雨地域となっています。

また、市北部の菅平地域では、年の平均気温が約7℃であり、平均最高気温が最も高い8月でも約25℃であり、夏は避暑地として観光客に親しまれています。一方、冬期の降水量（降雪量）が多くなっており、平均最低気温で最も低いのが1月の約-13℃と冬期の厳しい気象状況が伺えます。



上田の気候												
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均最高気温(°C)	4.5	6.2	14.1	20.2	23.4	28.4	31.7	32	27.6	19.9	16.2	8.5
平均気温(°C)	-1.3	-0.4	6	12.3	15.9	21.1	25.2	25.5	21.8	13.2	9.1	1.9
平均最低気温(°C)	-5.5	-5.1	-0.2	6.4	10	15.9	21.2	21.4	17.8	8.4	4.2	-2.7
降水量(mm)	5.5	27.5	47	84.5	77.5	83.5	281	71	140	40.5	65	12
日射時間(h)	218.8	196.6	237.1	213.5	222.3	211.5	176.3	175.7	150.3	159.2	175.5	194

菅平の気候												
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均最高気温(°C)	-2.8	-2.7	5.1	13.2	16.3	20.9	24.6	24.7	21.2	13.2	9.7	1.3
平均気温(°C)	-7.2	-7.7	-0.5	6.6	10	15.2	19.5	20	16.5	7.8	4.1	-3.8
平均最低気温(°C)	-13.4	-15.7	-7.2	0.1	3.1	10.4	15.4	16.4	12.7	2.7	-1.1	-9.3
降水量(mm)	67.5	72.5	57	127.5	99.5	78	202	135	199	71.5	89	37.5
日射時間(h)	146	134.2	189.9	199.6	211.7	198.3	149.5	152	131.5	156.3	176	159.7

〔図表・月別平均最高・平均・最低気温及び降水量などの推移（2022（R4）年） 左：上田 右：菅平〕

資料：気象庁

2. 人口等関連

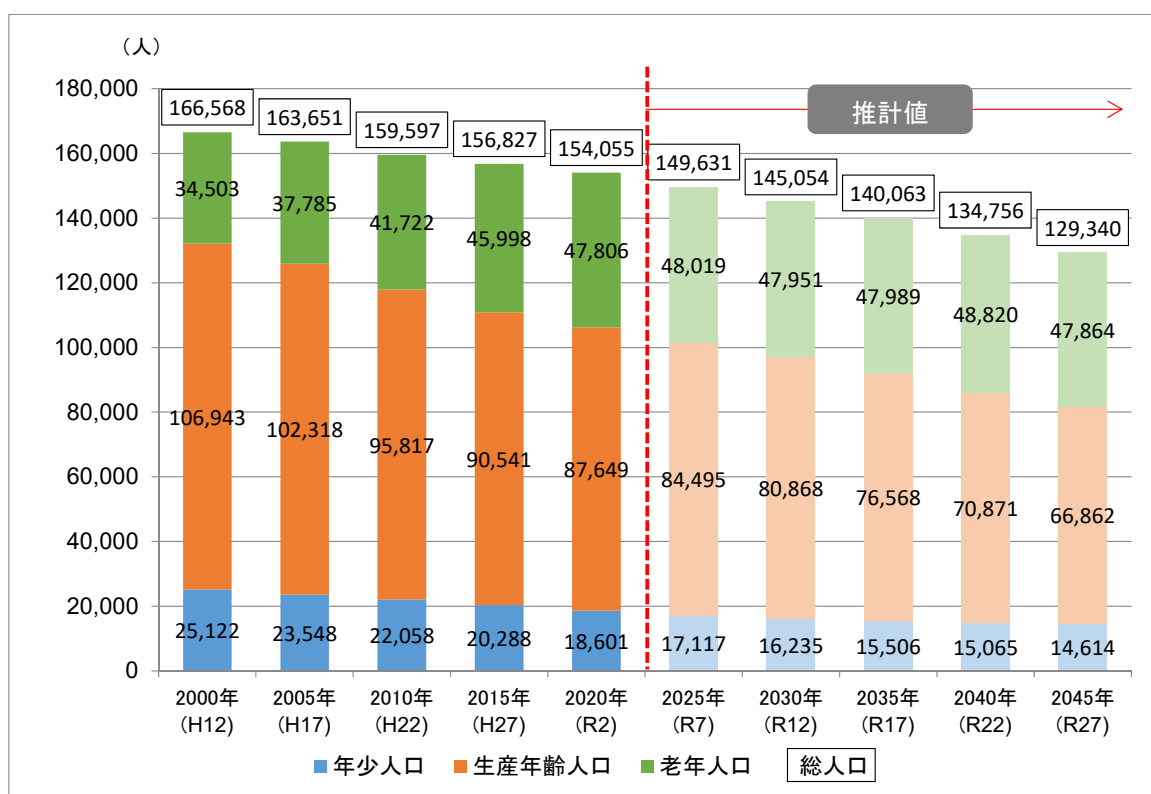
2-1 人口の推移

2000（平成12）年から2020（令和2）年の本市の人口推移を見ると、総人口は経年的に減少傾向にあり、2025（令和7）年以降もその傾向は継続するものと予測されています。

2020（令和2）年において総人口154,055人だったものが、10年後の2030（令和12）年には145,054人に、2045（令和27）年には129,340人と13万人を下回ると予想されています。

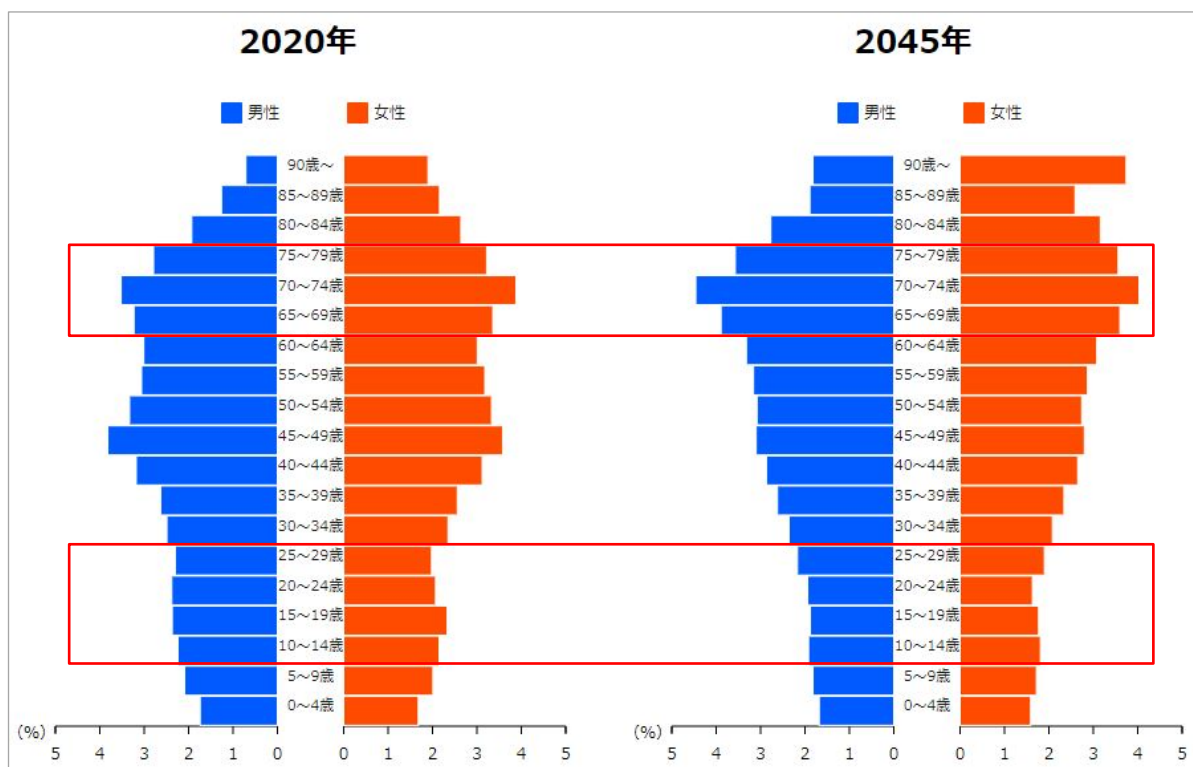
年少人口、生産年齢人口は市の総人口の減少に伴い減少しますが、老年人口はほぼ横ばいで推移し今後は高齢者の更なる高齢化が進むものと予想されています。

年齢別構成では、70歳前後の人口が多く30歳以下の若年層が少ない構造となっています。



〔図・人口の推移、将来予測〕

資料：2000（H12）年～2020（R2）年は国勢調査、2025（R7）年以降は社会保障・人口問題研究所推計



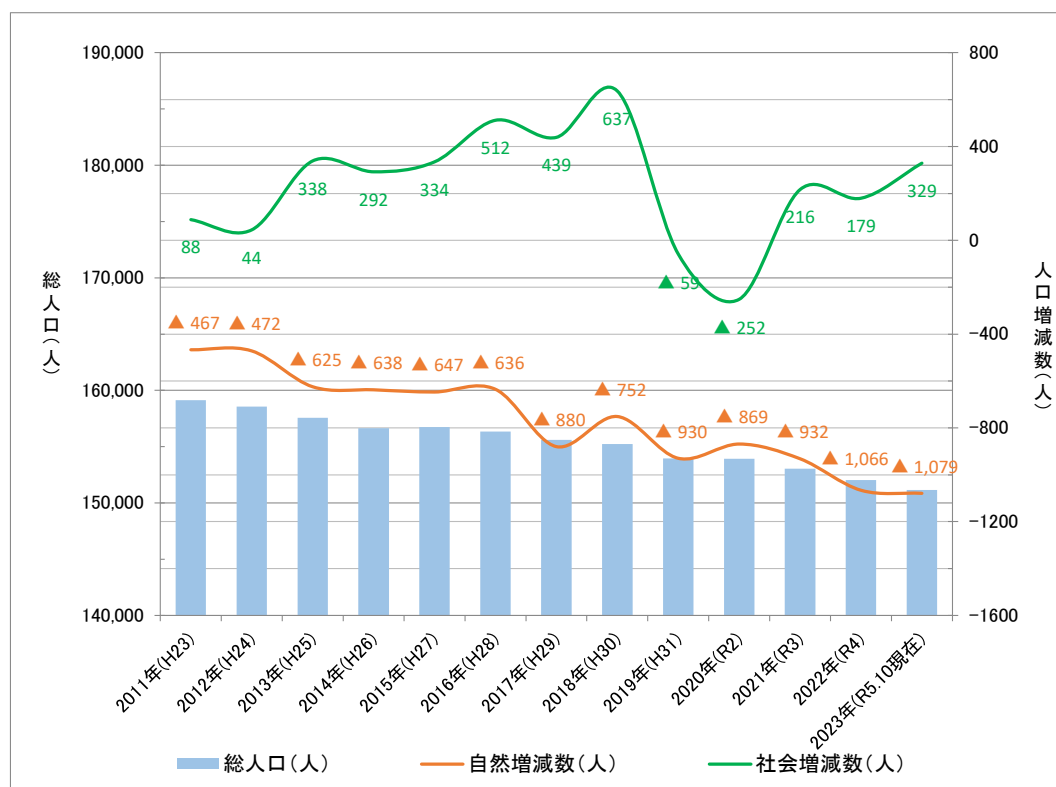
[図・人口ピラミッド]

資料：2020 (R2) 年は国勢調査、2045 (R27) 年は社会保障・人口問題研究所推計

2-2 人口動態

2011（平成 23）年から 2023（令和 5）年 10 月現在の本市の人口動態の推移を見ると、自然増減数（出生数 - 死亡数）は波があるものの経年的に減少傾向にあり、2019（平成 31）年以降の近年は減少幅が大きくなっています。

一方、社会増減数（転入 - 転出）は、2018（平成 30）年まで増加傾向にありましたが、2019（平成 31）年と 2020（令和 2）年には減少に転じました。しかしながら、2021（令和 3）年以降は再度転入超過に転じています。



年次	総人口	出生	死亡	自然増減数	転入	転出	社会増減数	人口動態
2011 (H23) 年	159,137	1,294	1,761	-467	5,153	5,065	88	-379
2012 (H24) 年	158,548	1,278	1,750	-472	4,676	4,632	44	-428
2013 (H25) 年	157,551	1,217	1,842	-625	4,699	4,361	338	-287
2014 (H26) 年	156,649	1,191	1,829	-638	4,790	4,498	292	-346
2015 (H27) 年	156,742	1,197	1,844	-647	4,922	4,588	334	-313
2016 (H28) 年	156,344	1,138	1,774	-636	4,893	4,381	512	-124
2017 (H29) 年	155,609	1,084	1,964	-880	4,876	4,437	439	-441
2018 (H30) 年	155,232	1,138	1,890	-752	5,299	4,662	637	-115
2019 (H31) 年	153,938	1,009	1,939	-930	4,830	4,889	-59	-989
2020 (R2) 年	153,923	1,032	1,901	-869	4,307	4,559	-252	-1,121
2021 (R3) 年	153,043	931	1,863	-932	4,584	4,368	216	-716
2022 (R4) 年	152,021	976	2,042	-1,066	4,822	4,643	179	-887
2023 (R5) 年10月現在	151,158	725	1,804	-1,079	4,392	4,063	329	-750

〔図表・人口動態〕

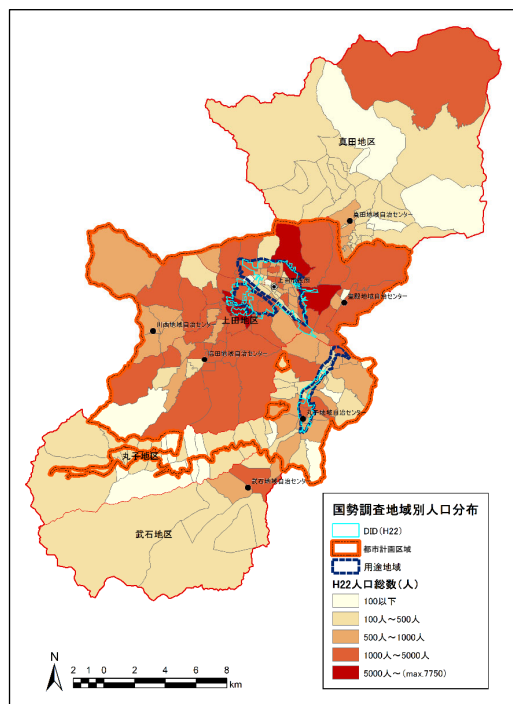
資料：長野県毎月人口異動調査

2-3 地区別人口等

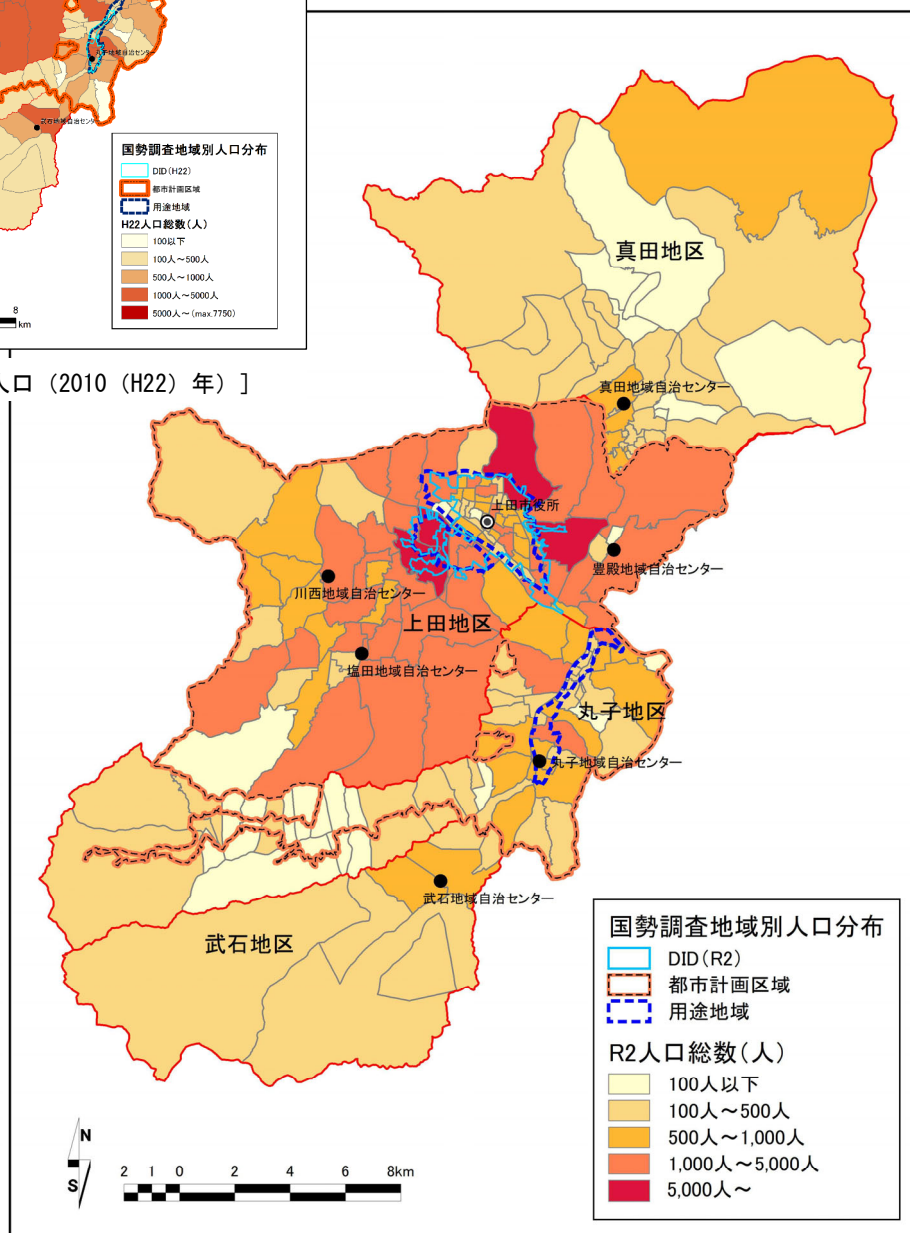
(1) 地区別人口

用途地域内及びその周辺で人口規模の高い地区（「5,000人以上」と「1,000～5,000人」）がある状況にあまり変化はありません。

一方、川西地域や真田地域での減少が目立っています。



〔図・地域別人口（2010（H22）年）〕



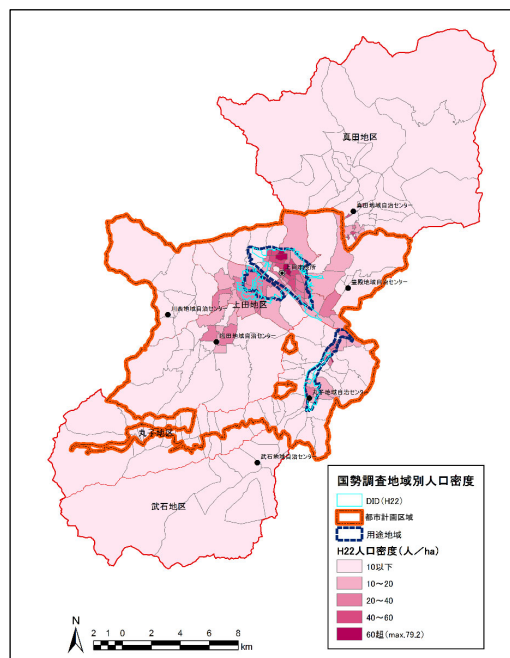
〔図・地域別人口（2020（R2）年）〕

資料：国勢調査

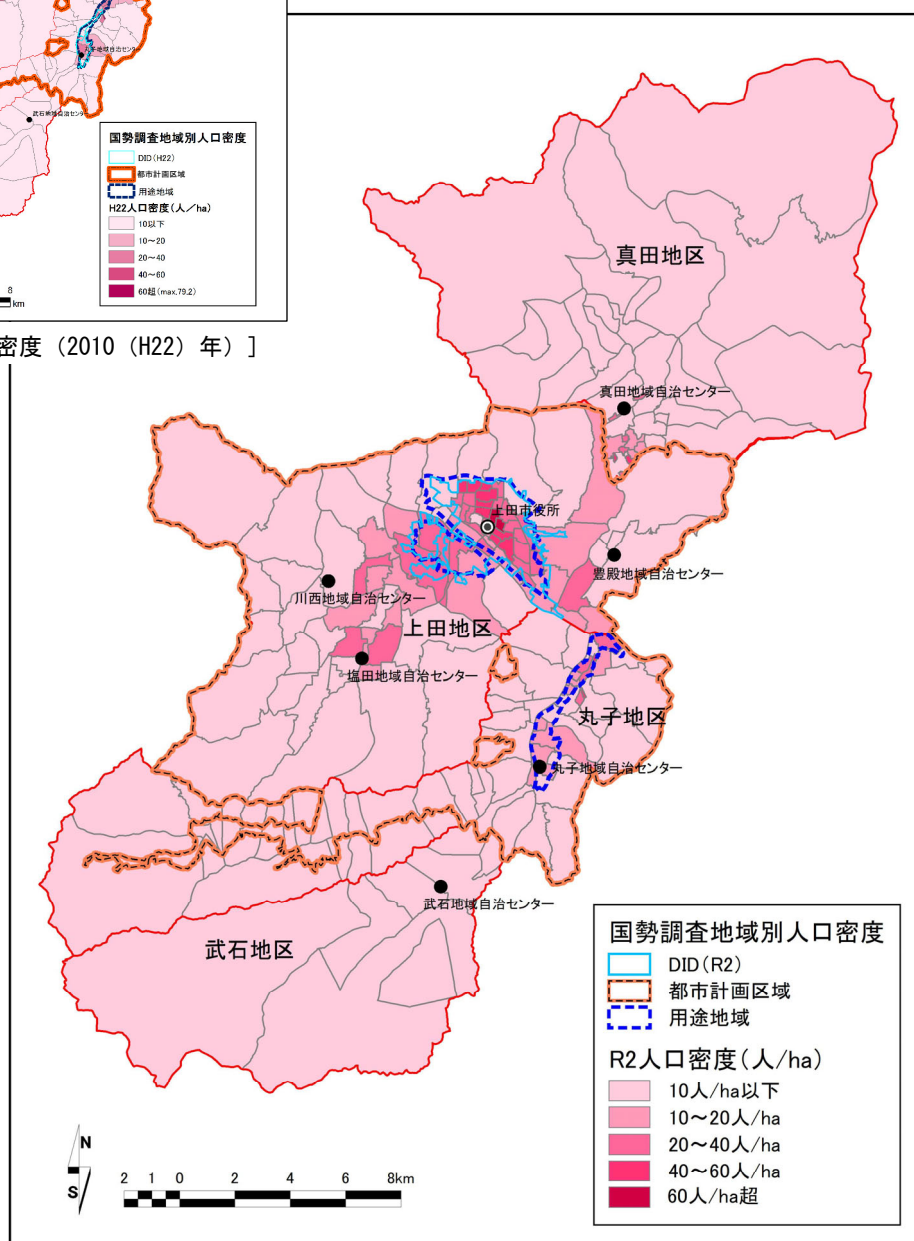
(2) 地区別人口密度

上田用途地域内において 40 人/ha 以上の地区が見られることに変化はありません。

上田及び丸子用途地域外隣接地区において、比較的高い人口密度を示している地区があることにも大きな変化はありません。



[図・地域別人口密度 (2010 (H22) 年)]



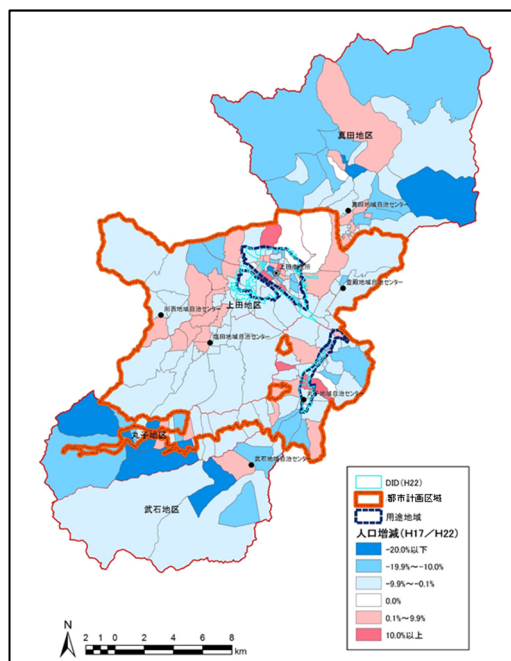
[図・地域別人口密度 (2020 (R2) 年)]

資料：国勢調査

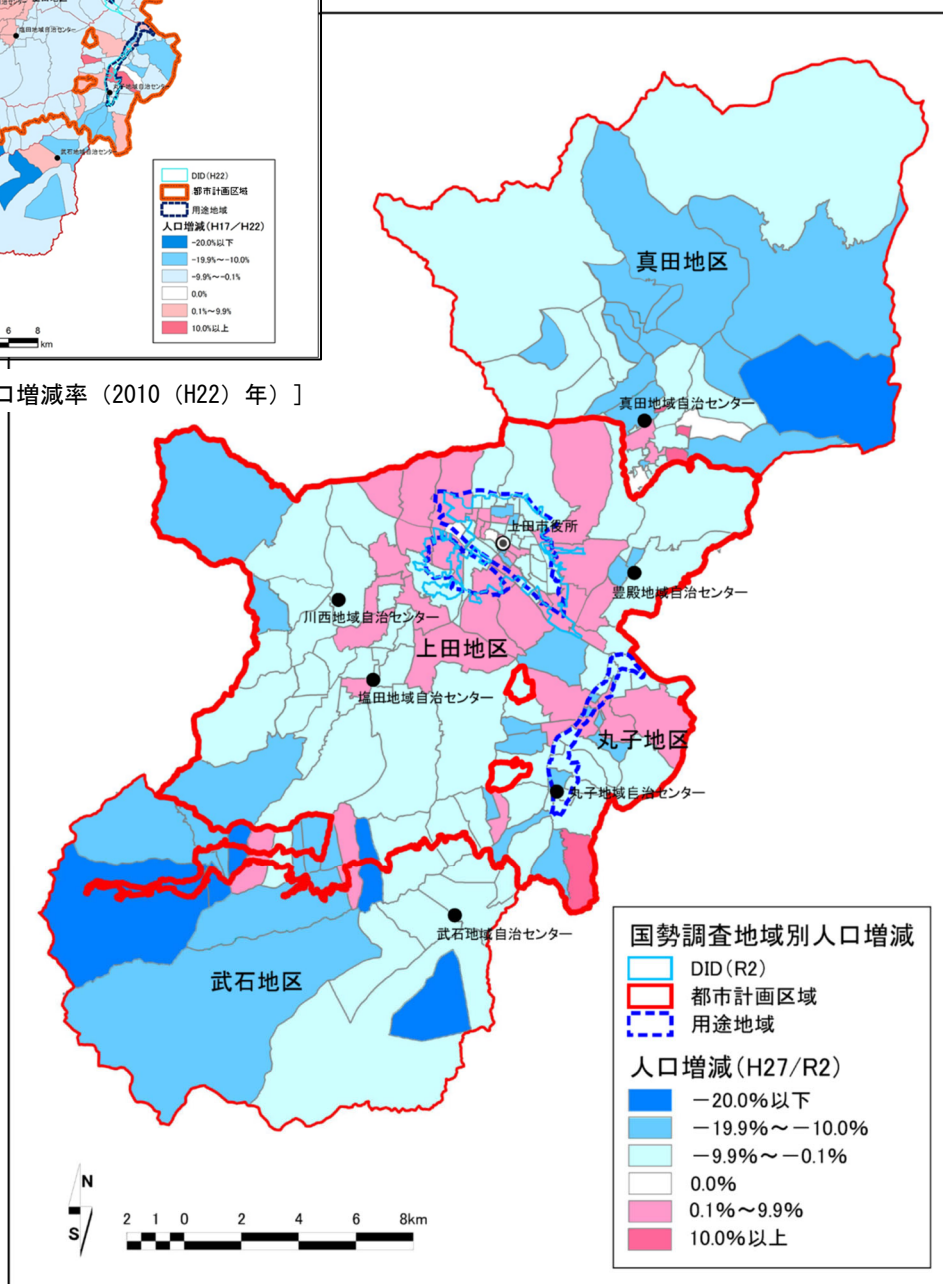
(3) 地区別人口増減率

全般的に10%未満の減少率の地区が多くを占めており、特に川西地域や武石地域、真田地域で減少率が高くなった地区がみられます。

一方、上田・丸子の用途地域隣接部において増加率が高くなった地区が見られます。

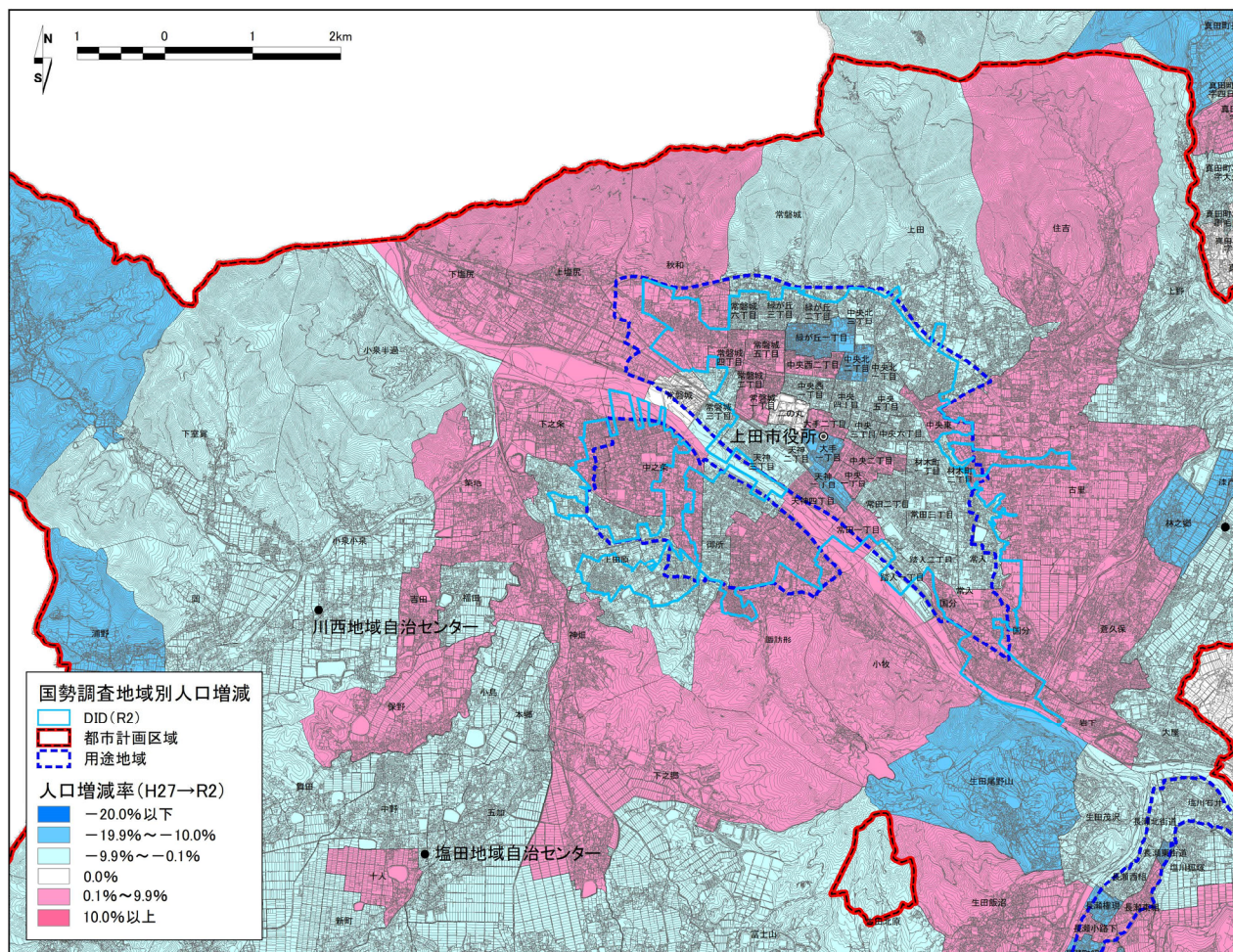


[図・地区別人口増減率 (2010 (H22) 年)]



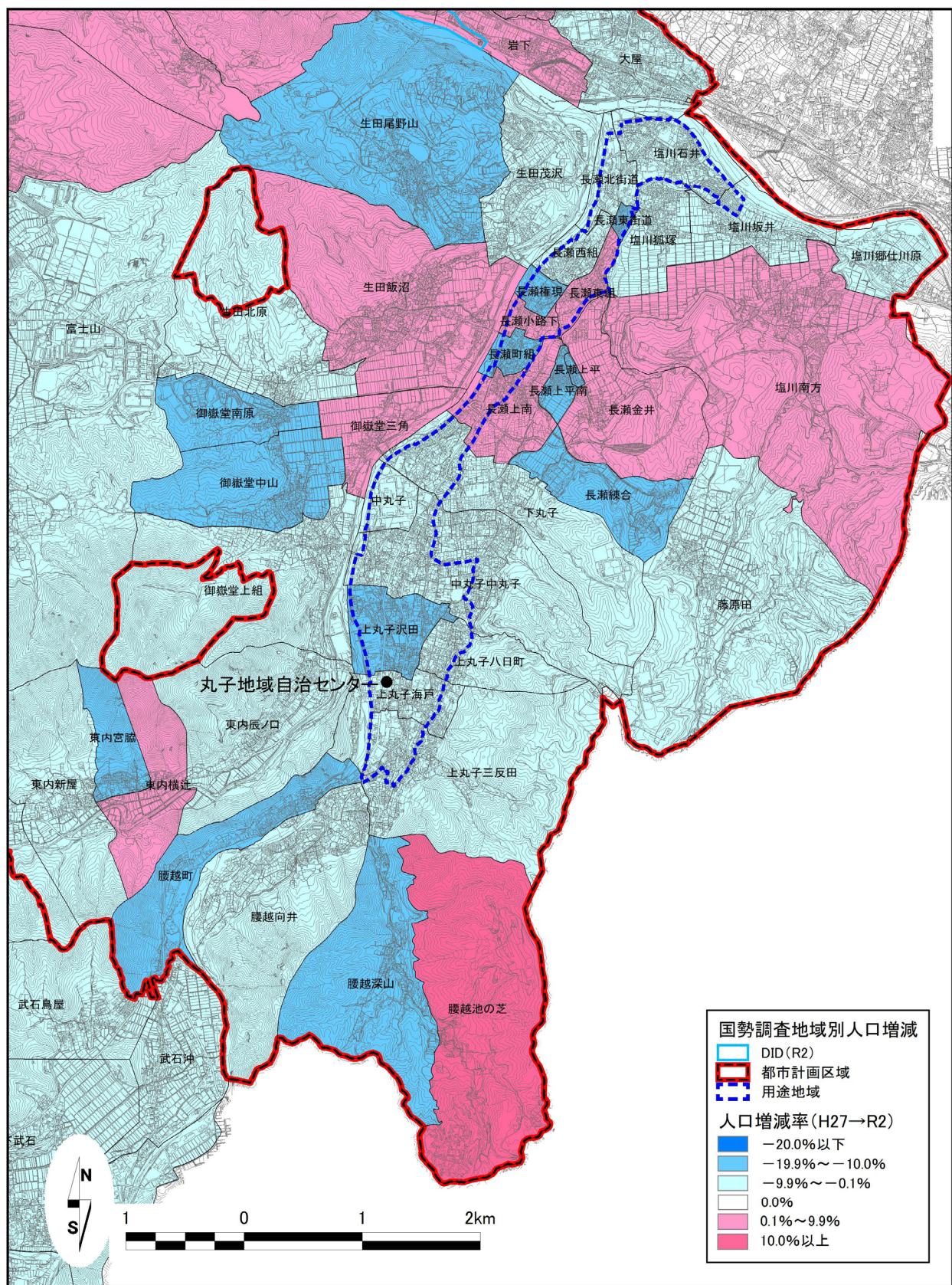
[図・地区別人口密度 (2020 (R2) 年)]

資料：国勢調査



[図・地域別人口密度（2020（R2）年）]（上田用途地域周辺）

資料：国勢調査



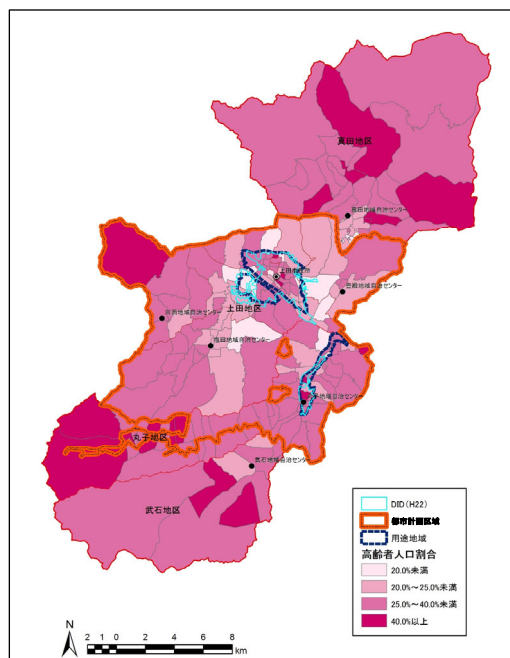
〔図・地区別人口密度（2020（R2）年）〕（丸子用途地域周辺）

資料：国勢調査

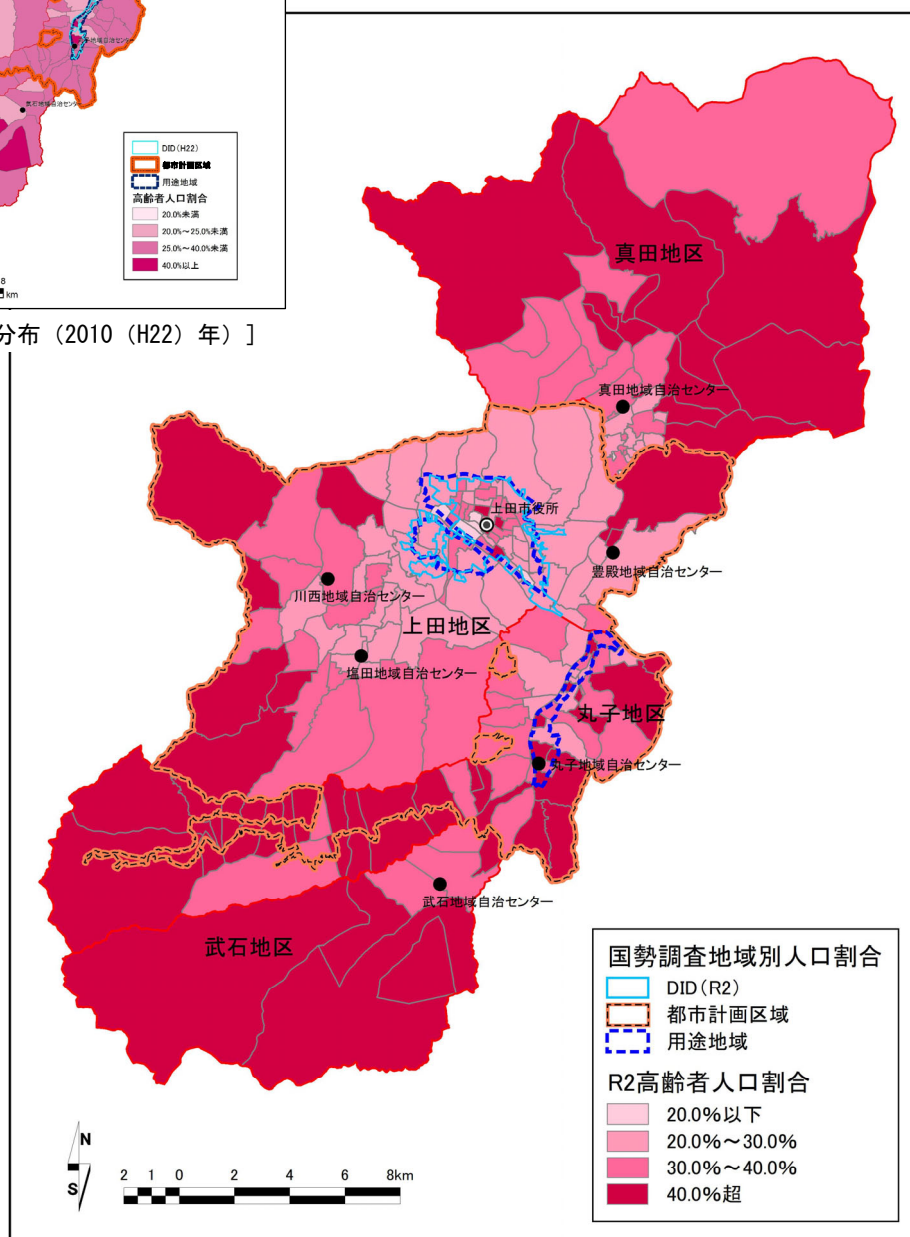
(4) 地区別高齢者人口割合

地区別高齢者人口割合は全市的に高い値に推移し、40%超の地区が多くなっており、特に武石地域、真田地域において顕著になっています。

上田用途地域内においても40%超の地区が見られます。



[図・高齢者人口分布 (2010 (H22) 年)]



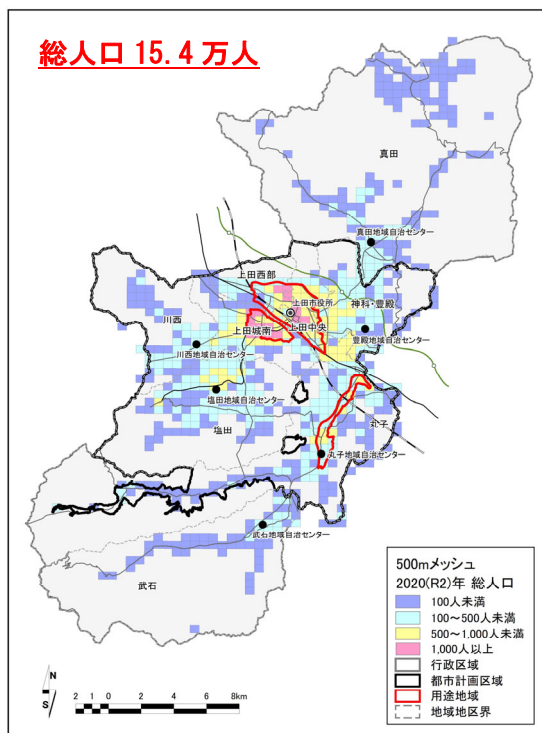
[図・高齢者人口分布 (2020 (R2) 年)]

資料：国勢調査

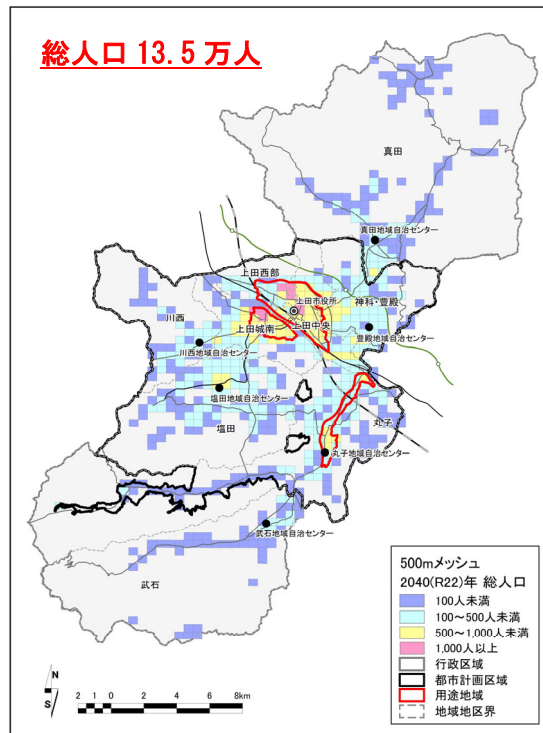
2-4 将来人口の推計・現状との比較

(1) 総人口

将来の人口推計（総人口）では、上田用途地域内での人口減少が目立っています。



〔図・2020 (R2) 年人口メッシュ〕

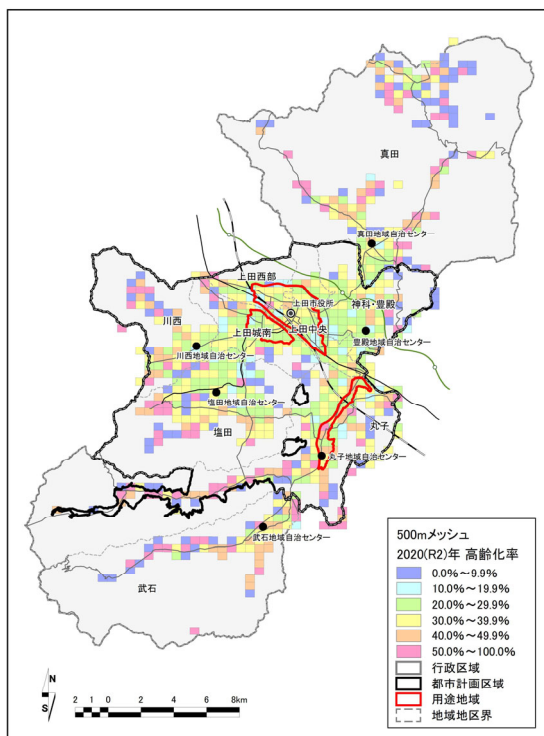


〔図・2040 (R22) 年人口メッシュ〕

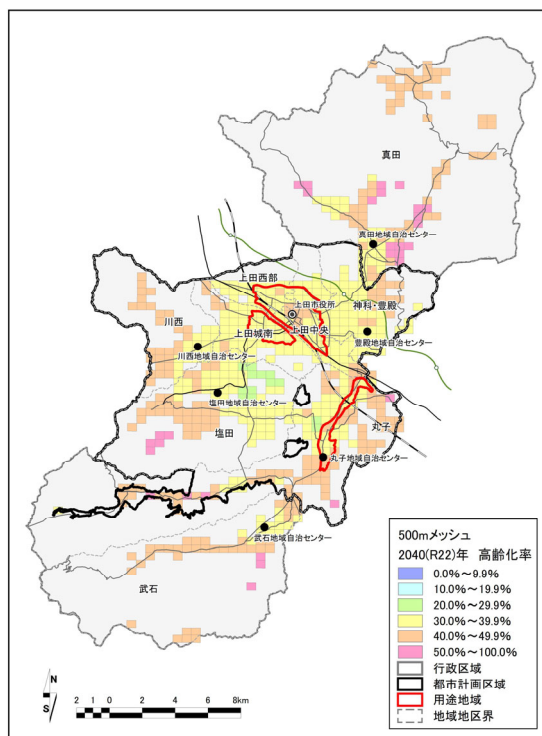
資料：2020 (R2) 年は国勢調査、2040 (R22) 年は国土数値情報

(2) 高齢化率の変化（65歳以上）

将来の人口推計（高齢化率）では、全市的な高まりが顕著で、大部分が30%以上となることが予測されます。



〔図・2020 (R2) 年人口メッシュ〕

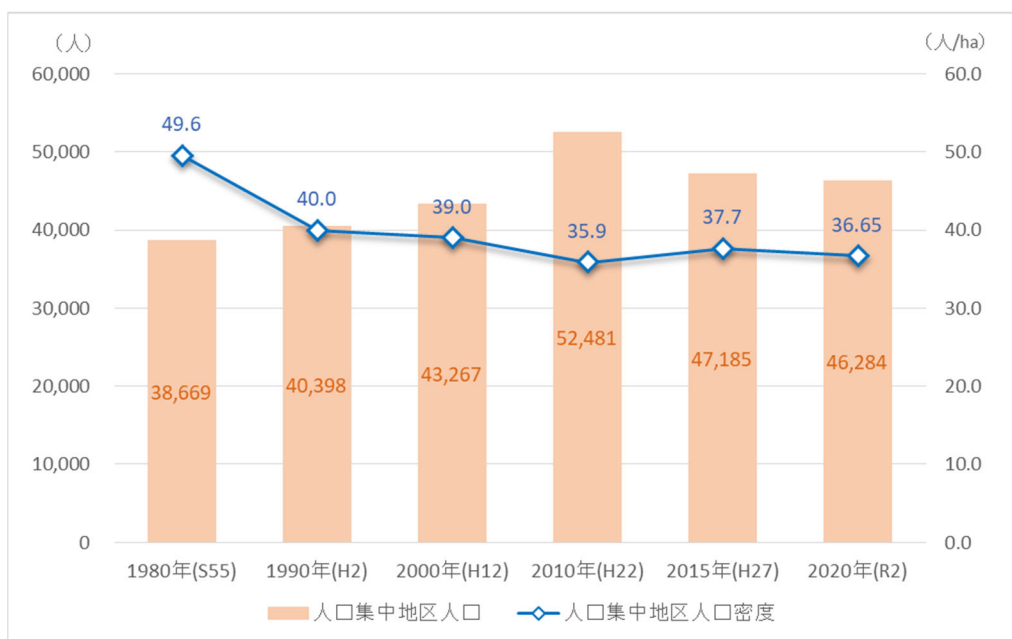


〔図・2040 (R22) 年人口メッシュ〕

資料：2020 (R2) 年は国勢調査、2040 (R22) 年は国土数値情報

2-5 人口集中地区（DID）の変遷

人口集中地区人口は2010（平成22）年までは増加傾向にありましたが、2015（平成27）年の国勢調査で丸子地区の人口集中地区が除外され、また市全体の人口も減少傾向にあるため、それと同調するように人口集中地区人口も減少傾向に転じています。人口集中地区人口密度は、近年横ばい傾向にあります。



年次	人口集中地区人口 (人)	面積 (ha)	人口集中地区人口密度 (人/ha)
1980 (S55) 年	38,669	780.0	49.6
1990 (H2) 年	40,398	1,010.0	40.0
2000 (H12) 年	43,267	1,109.0	39.0
2010 (H22) 年	52,481	1,463.0	35.9
2015 (H27) 年	47,185	1,253.0	37.7
2020 (R2) 年	46,284	1,263.0	36.65

[図表・人口集中地区人口・人口密度の推移]

資料：上田市統計書、国勢調査

2-6 道路・交通

(1) 広域交通網

上信越自動車道や北陸新幹線など、本市と周辺都市及び主要都市圏を結ぶ広域交通網が整備されており、生活範囲、経済活動、観光誘客など多様な分野での効果を期待した利活用がされています。



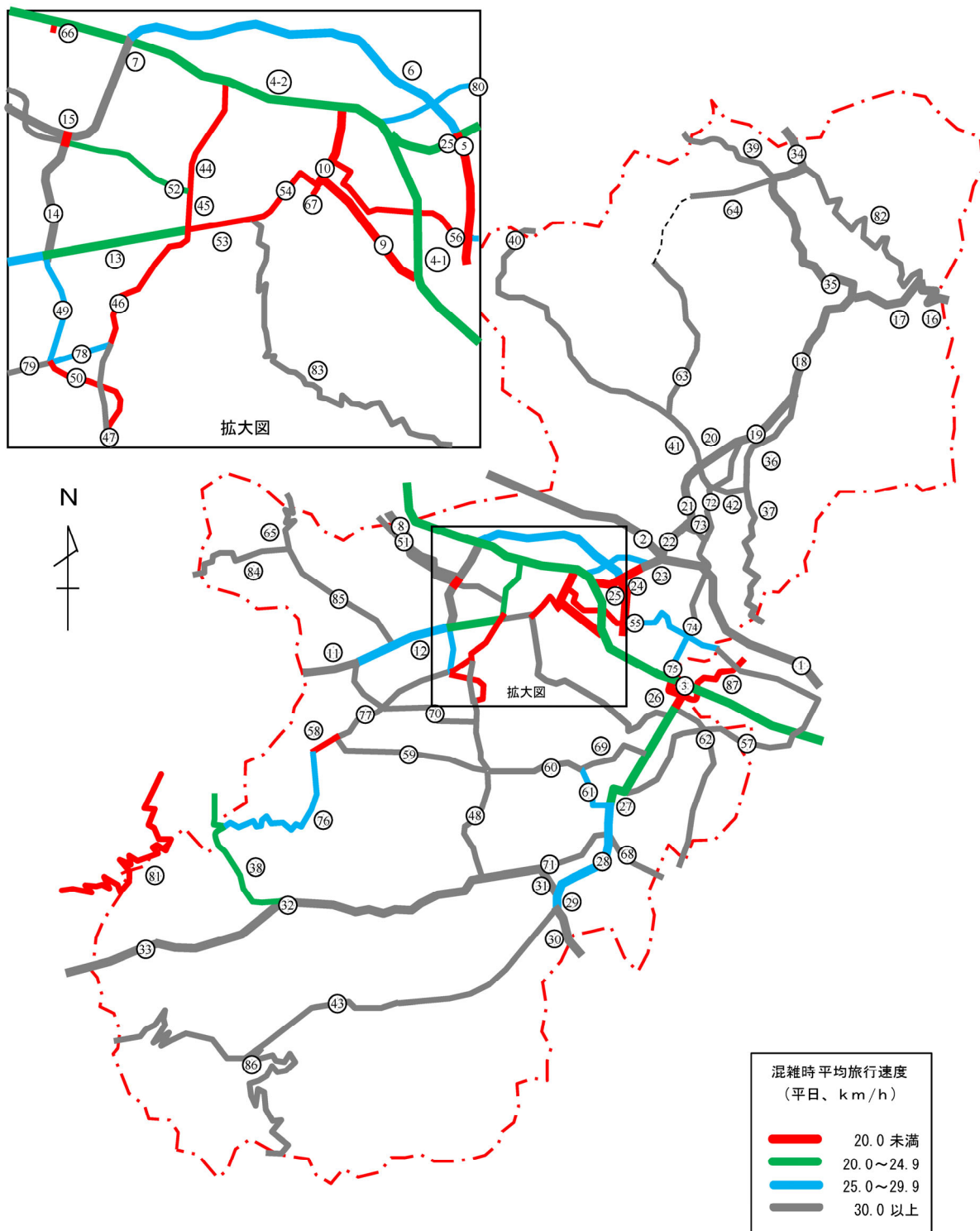
〔図・長野県の広域交通網計画〕

資料：長野県新交通ビジョン（2013（平成25）年3月）

(2) 市内の交通状況

<主要幹線道路>

市内の主要幹線道路における混雑時の平均旅行速度を見ると、国道18号上田バイパス（位置図番号：5）や（主）上田丸子線（位置図番号：44、46、50）、（主）長野上田線（位置図番号：53、54）など、20.0km/h未満となる路線が中心市街地周辺地域に多くあり、自動車交通が集中すると同時に混雑区間が生じています。

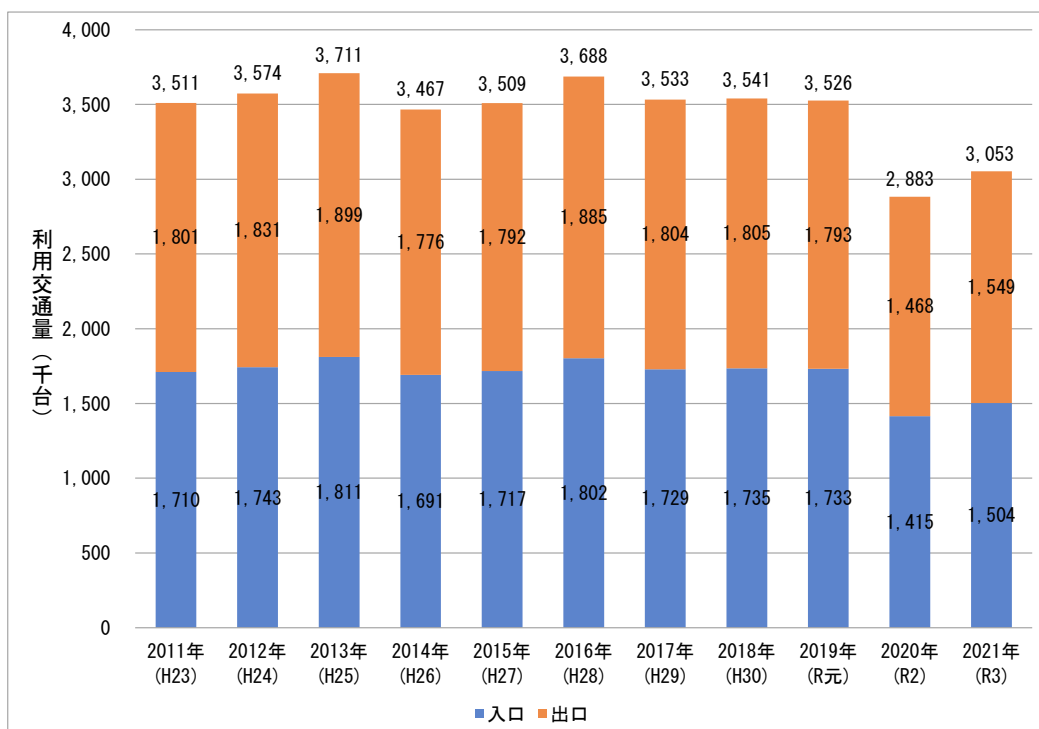


[図・混雑時平均旅行速度分布]

資料：R3 都市計画基礎調査

< 高速道路 >

本市には上信越自動車道上田菅平インターチェンジがあり、利用交通量は 350 万台前後で推移していますが、2021（令和 3）年では、約 300 万台に減少しています。

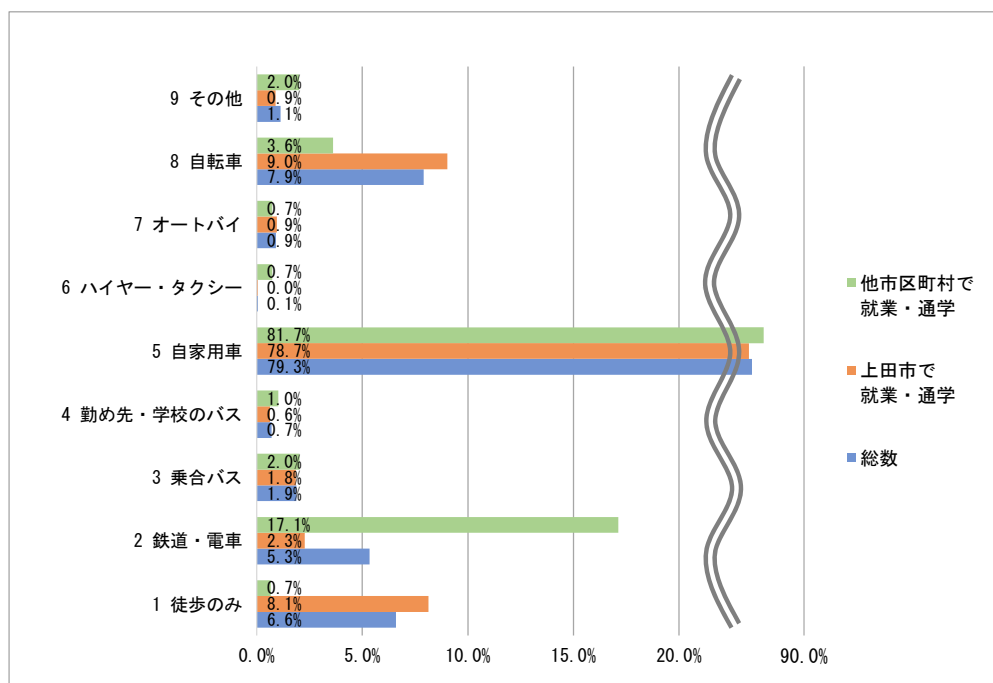


[図・上田菅平インター利用状況]

資料：東日本高速道路株式会社関東支社佐久管理事務所

(3) 就業・通学者の移動手段

通勤や通学時の利用交通手段では、自家用車の利用が 80%前後で最も多く、鉄道やバスなど公共交通の利用は、「他市区町村で就業・通学」を除き 10%以下となっています。

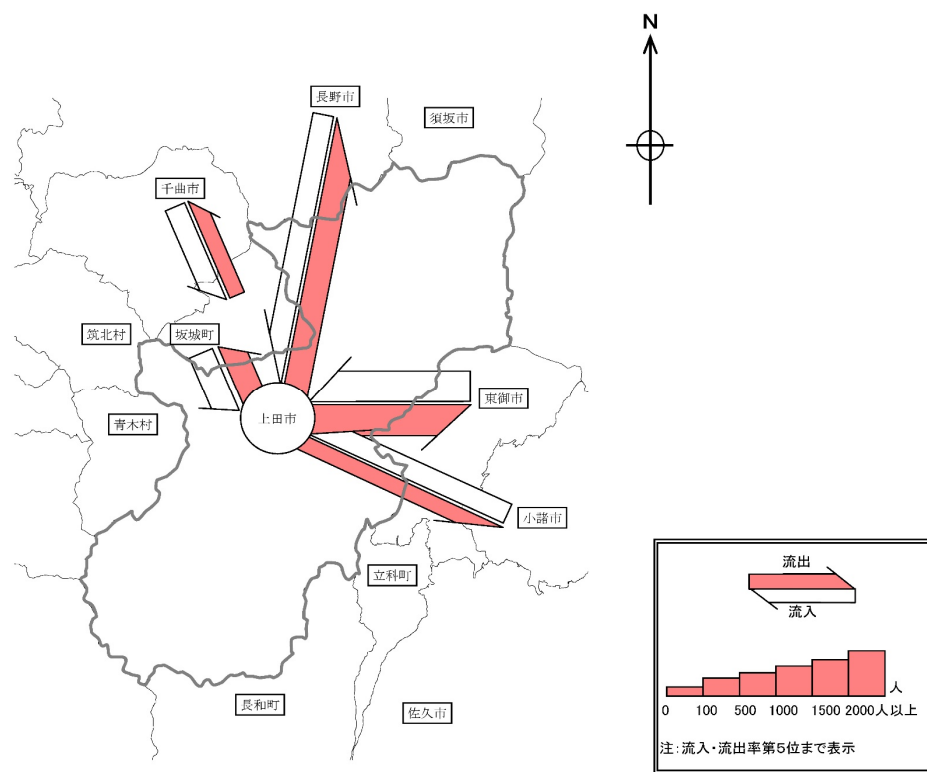


[図・就業・通学者の移動手段]

資料：R2 国勢調査

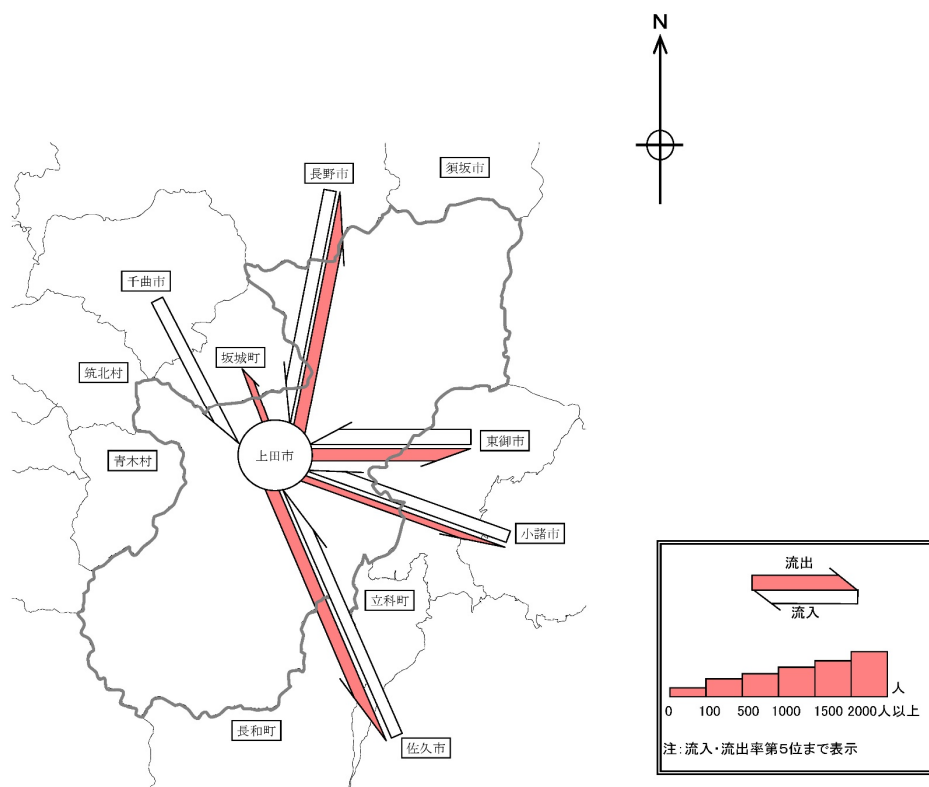
2-7 通勤・通学

本市は東信地域の中核都市であり、通勤・通学流動の状況は、流入が多くなっています。就業者の流出先は東御市が多く、また、通学者の流出先は長野市が最も多くなっています。その他、隣接する坂城町との往来も多い状況です。



[図・通勤流動]

資料：R3 都市計画基礎調査



[図・通学流動]

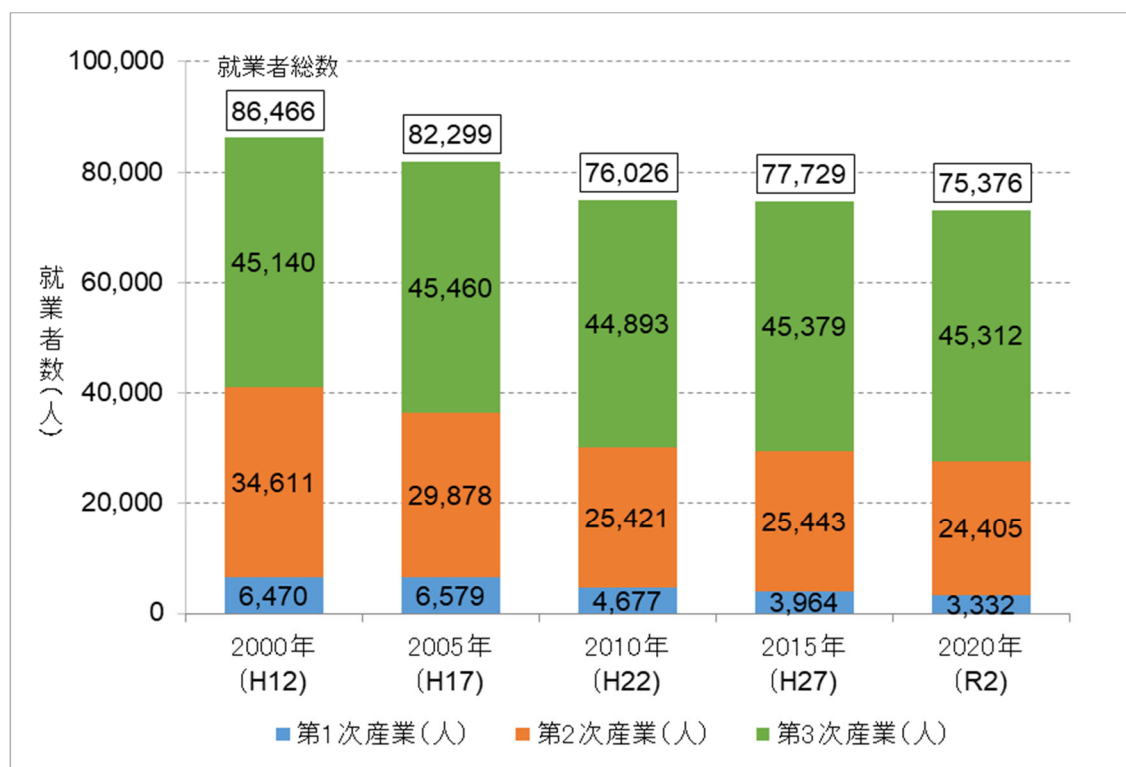
資料：R3 都市計画基礎調査

3. 産業関連

3-1 産業別就業人口

2000（平成12）年から2020（令和2）年までの産業分類別人口の推移を見ると、経年的におおむね減少傾向にあります。2020（令和2）年の総数は75,376人となっており、2000（平成12）年に比べると約13%減少しています。

産業分類別に見ると、第3次産業就業者数が最も多く、2020（令和2）年では全体の約60%を占めています。同様に第2次産業就業者は約32%、第1次産業就業者数は約4%となっています。（※分類不能を含んだ総数に対する割合）



※就業者数総数は分類不能含む

区分	2000 (H12) 年	2005 (H17) 年	2010 (H22) 年	2015 (H27) 年	2020 (R2) 年
第1次産業（人）	6,470	6,579	4,677	3,964	3,332
第2次産業（人）	34,611	29,878	25,421	25,443	24,405
第3次産業（人）	45,140	45,460	44,893	45,379	45,312

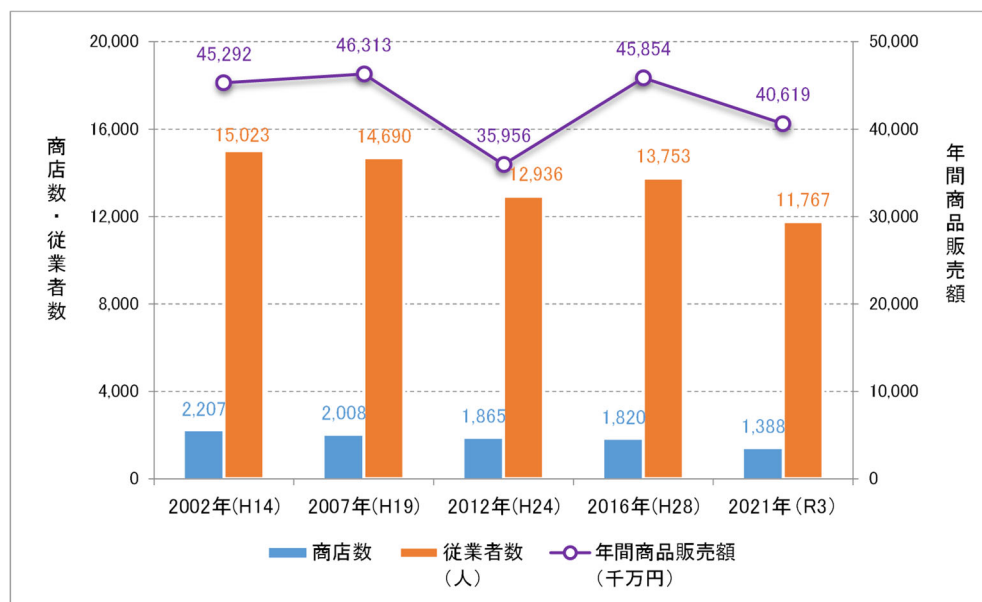
※分類不能除く

[図表・産業別就業者数]

資料：上田市の統計

3-2 商業

2002（平成14）年から2021（令和3）年までの商店数・従業者数及び年間商品販売額の推移をみると、商店数、従業者数の減少傾向が続く中、年間商品販売額（実数）は増減がありながらも概ね横ばいに推移しています。

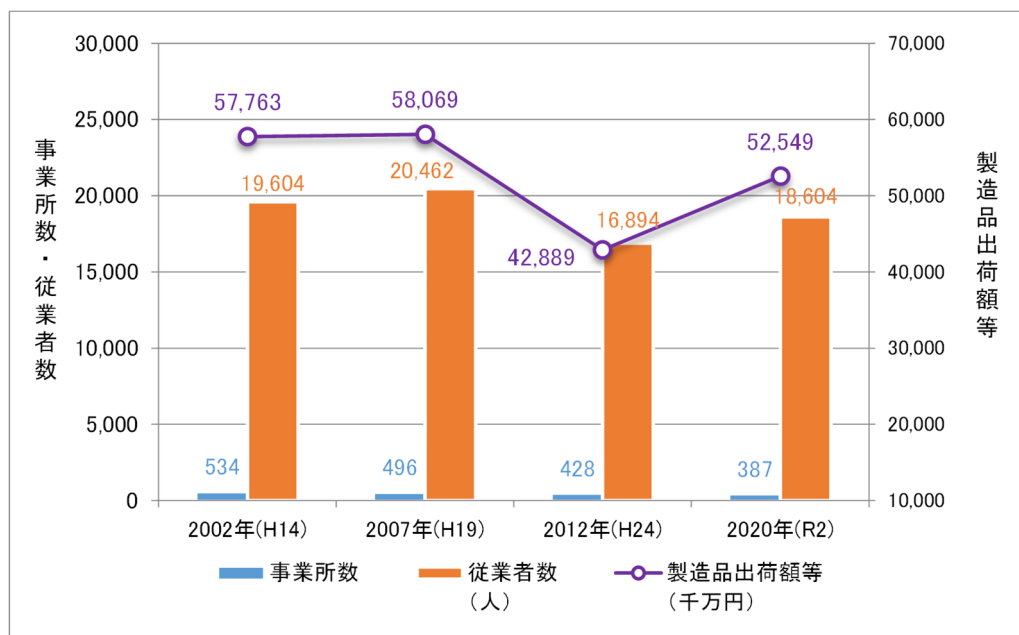


[図・産業別就業者数]

資料：商業統計調査、経済センサス活動調査

3-3 工業

2002（平成14）年から2020（令和2）年までの事業所数・従業者数及び製造品出荷額などの推移をみると、事業所数の減少傾向が続く中、従業者数、製造品出荷額（実数）は増減がありながらも概ね横ばいに推移しています。



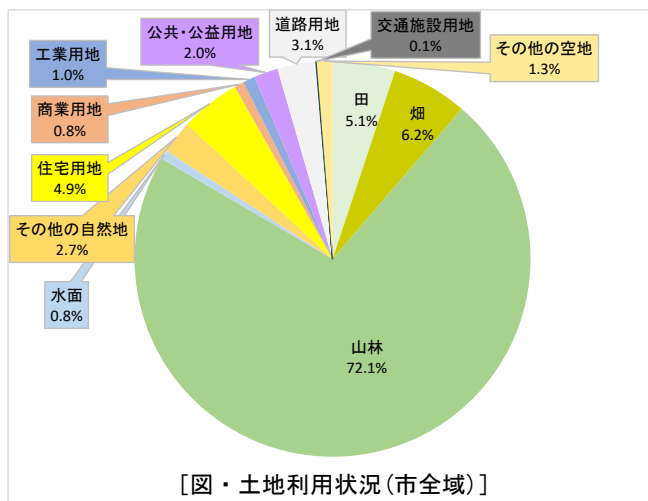
[図・産業別就業者数]

資料：工業統計調査

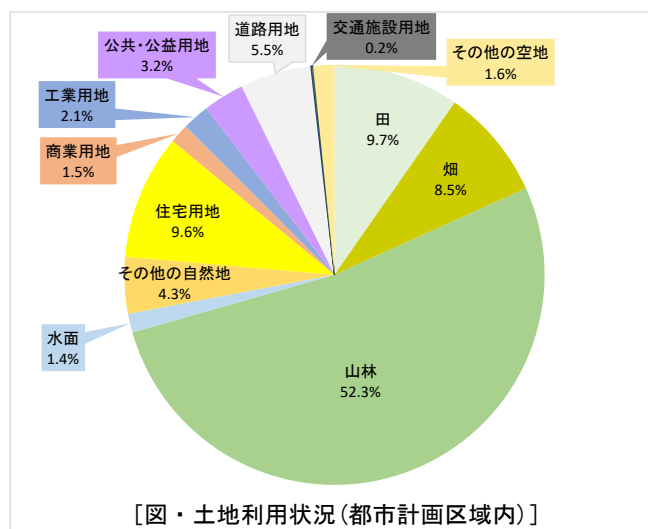
4. 土地利用関連

4-1 土地利用

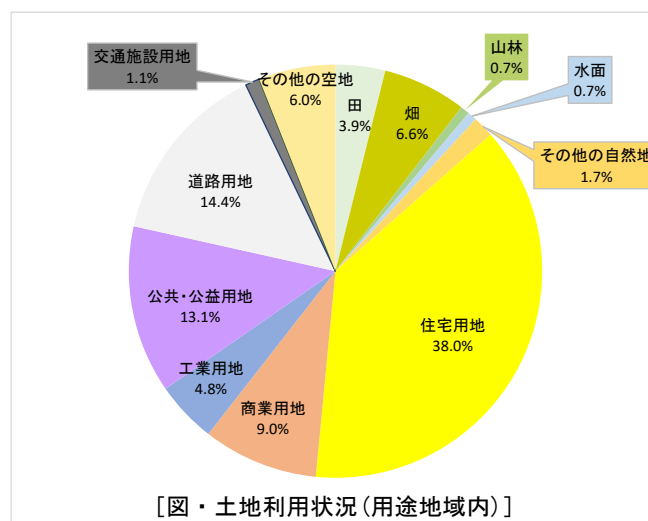
市全域では山林が約72%を占めており、次いで畑が約6%、田が約5%と水面やその他自然地を含めると約86%が自然的土地利用となっています。一方住宅用地や道路などの都市的土地利用のうち、最も大きな割合を占めているのが住宅用地の約5%、次いで道路用地が約3%などとなっています。



都市計画区域内の土地利用を見ると、ここでも山林が約52%と最も大きな割合を占めており、次いで田が約10%、畑が約9%となっています。水面やその他自然地を含めると都市計画区域の約76%が自然的土地利用となっています。一方住宅用地や道路などの都市的土地利用のうち、最も大きな割合を占めているのが住宅用地の約10%、次いで道路用地が約6%などとなっています。



用途地域内の土地利用を見ると、住宅用地が最も多く全体の約38%を占め、次いで道路用地が約14%、公共・公益用地が約13%、商業用地が約9%などとなっており、都市的土地利用が約86%を占めています。一方、山林や田畑などの自然的土地利用は全体の約14%で、そのうち最も大きな割合を占めているのが畑の約7%、次いで田の約4%などとなっており、水面やその他自然地を含めると用途地域内の約14%が自然的土地利用となっています。



資料：R3 都市計画基礎調査

[表・土地利用状況]

(単位：ha)

市街地区分	自然的土地利用						
	農地			山林	水面	その他の自然 地	小計
	田	畑	小計				
用途地域指定区域	62.1	105.0	167.1	11.4	11.5	26.7	216.7
用途地域指定区域外	2,196.7	1,885.5	4,082.2	12,180.6	325.4	984.9	17,573.1
都市計画区域	2,258.8	1,990.5	4,249.3	12,192.0	336.9	1,011.6	17,789.8
都市計画区域外	566.9	1,433.4	2,000.3	27,618.4	79.5	471.2	30,169.4
合計	2,825.7	3,423.9	6,249.6	39,810.4	416.4	1,482.8	47,959.2

市街地区分	都市的土地利用										合計	可住地	非可住地
	宅地				公共・公益用地	道路用地	交通施設用地	その他の公的施設用地	その他の空地	小計			
	住宅用地	商業用地	工業用地	小計									
用途地域指定区域	608.9	144.6	77.1	830.6	210.4	230.1	18.2	0.0	96.4	1,385.7	1,602.4	1,087.8	514.6
用途地域指定区域外	1,633.8	197.6	409.5	2,240.9	524.7	1,050.6	20.7	0.0	281.6	4,118.5	21,691.6	7,042.5	14,649.1
都市計画区域	2,242.7	342.2	486.6	3,071.5	735.1	1,280.7	38.9	0.0	378.0	5,504.2	23,294.0	8,130.3	15,163.7
都市計画区域外	459.0	95.8	58.7	613.5	348.7	454.9	0.0	0.0	323.5	1,740.6	31,910.0	3,242.3	28,667.7
合計	2,701.7	438.0	545.3	3,685.0	1,083.8	1,735.6	38.9	0.0	701.5	7,244.8	55,204.0	11,372.6	43,831.4

注1. 「公共・公益用地」は土地利用現況図の「公共施設用地」と「公共空地」の合計。

注2. 非可住地は、以下のとおりとする。

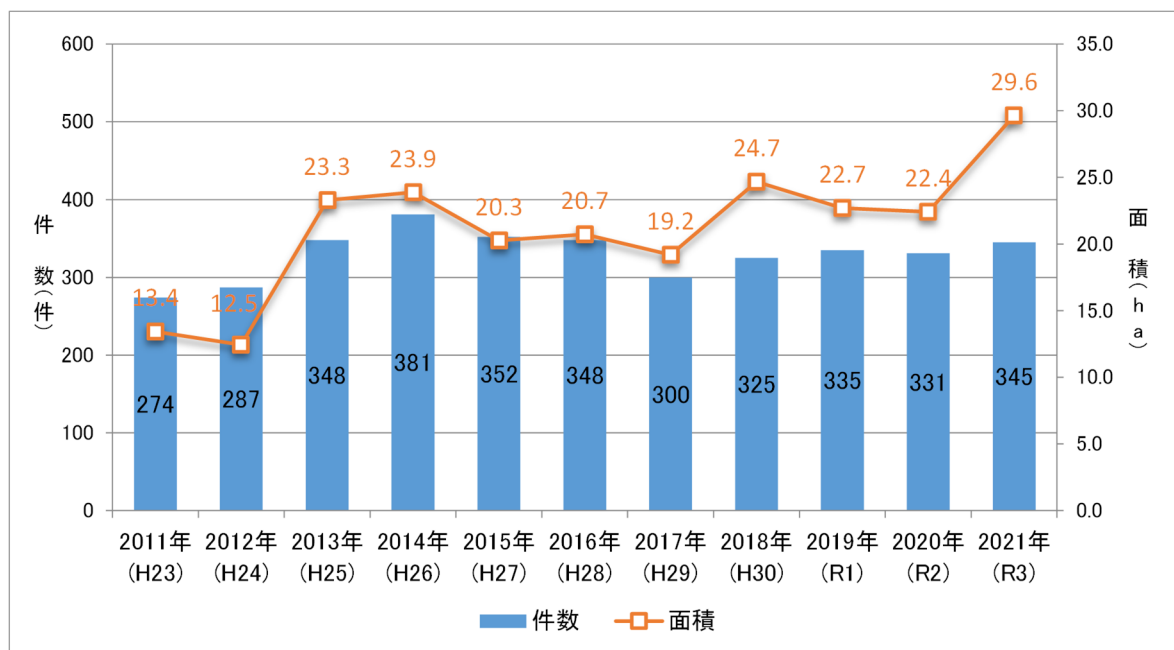
- ・「水面」、「その他の自然地」（耕作放棄地・草地は除く）、「公共・公益用地」、「道路用地」、「交通施設用地」、「その他の公的施設用地」とこれらのほか、大規模（1ha以上）な商業用地を非可住地とした。
- ・都市計画区域外は「山林」も非可住地とした。

資料：R3 都市計画基礎調査

4-2 農地転用

2011（平成23）年から2021（令和3）年までの農地転用の件数及び面積の推移を見ると、2013（平成25）年に件数、面積ともに大きく増加し、その後波はあるものの、経年的に300件、おおむね20ha以上の農地転用が行われており、活発な土地活用が行われている様子が伺えます。

なお、特徴として用途地域外の転用件数が多く、中心市街地に比べ安価で、より広い宅地を求めて中心部から郊外へ居住が拡散する傾向にあります。



(単位：件・ha)

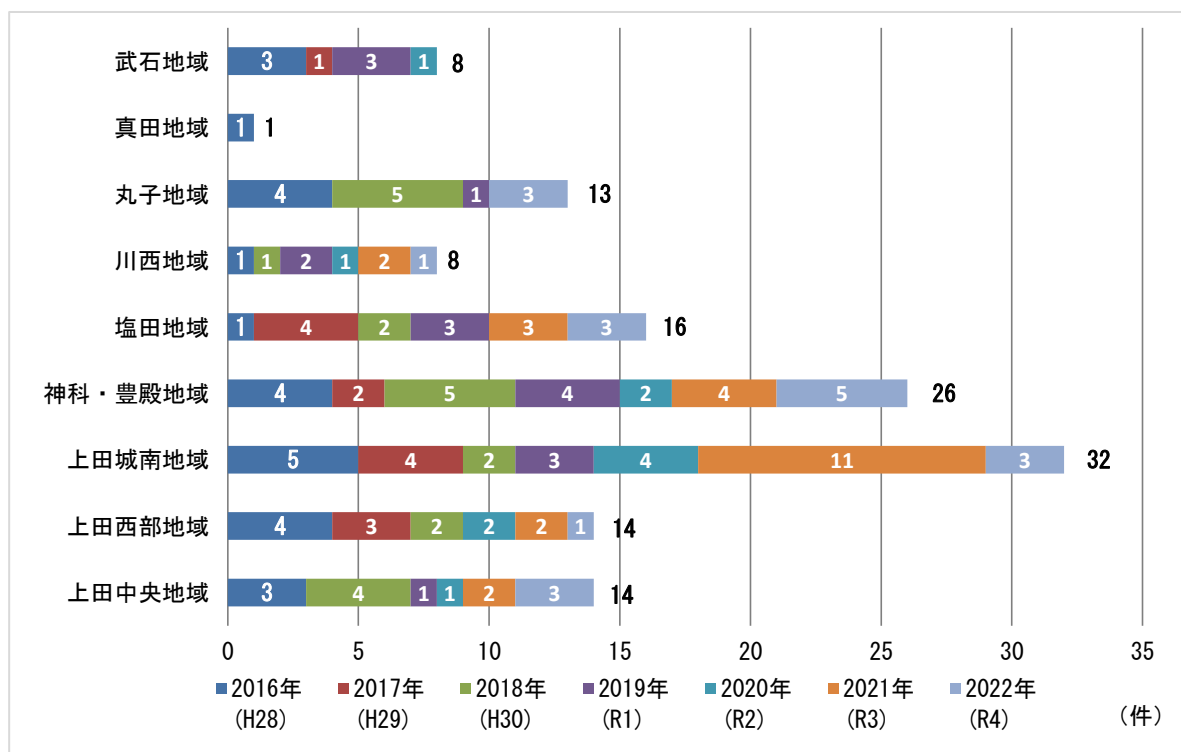
年次	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)
件数	274	287	348	381	352	348
面積	13.4	12.5	23.3	23.9	20.3	20.7
年次	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	
件数	300	325	335	331	345	
面積	19.2	24.7	22.7	22.4	29.6	

[図表・農地転用の推移]

資料：上田市の統計（農業委員会）

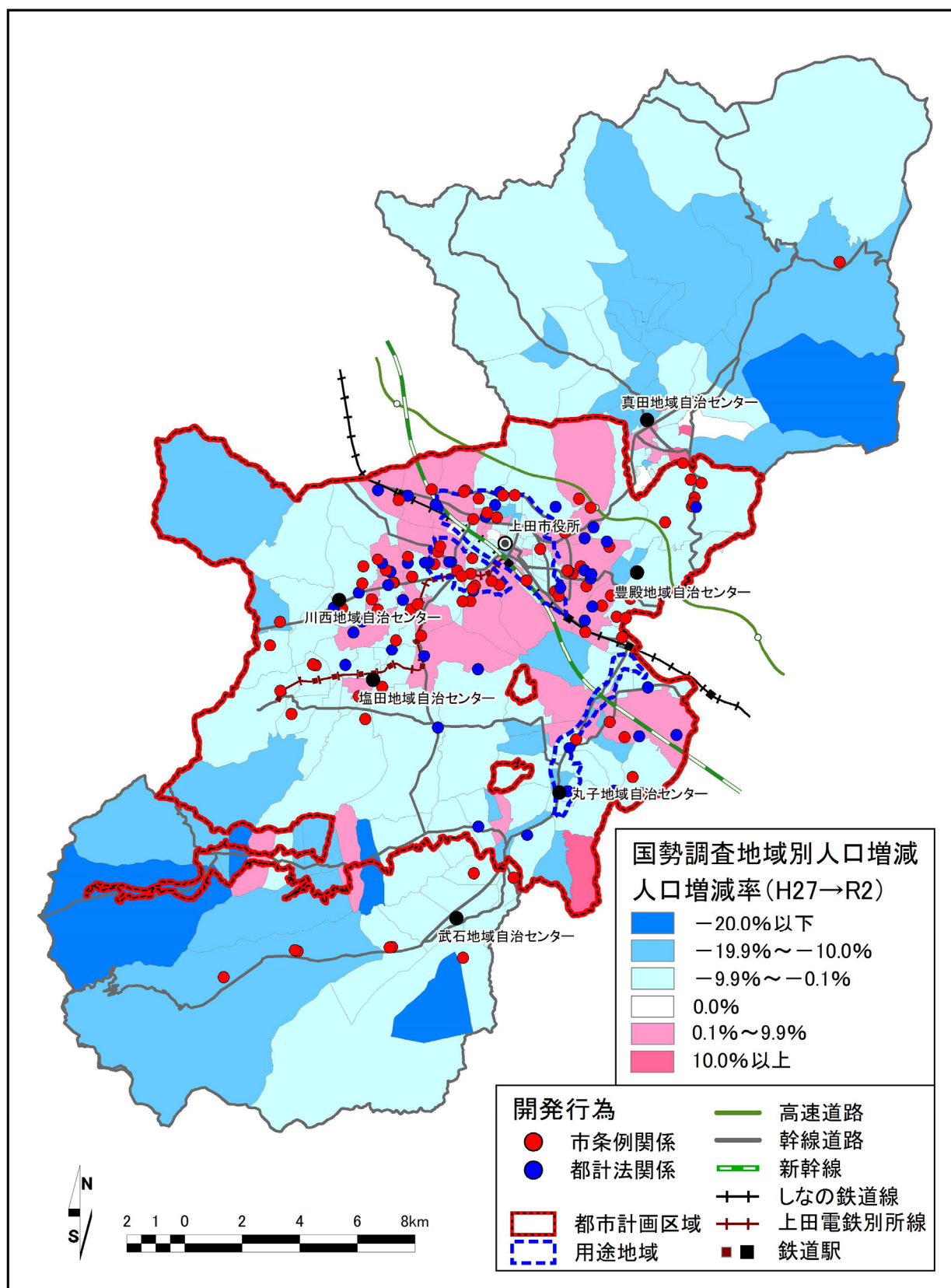
4-3 開発行為

2016（平成28）年から2021（令和4）年の「上田市開発事業の規制に関する条例」に基づく、地域別の開発行為の届出件数は、上田城南地域が最も多く32件、次いで神科・豊殿地域が26件、塩田地域が16件となっています。



[図・地域別の開発行為の届出件数]

資料：開発事業届台帳



[図・市条例開発事業届・都市計画法開発行為（H28～R4） 届出の分布状況]

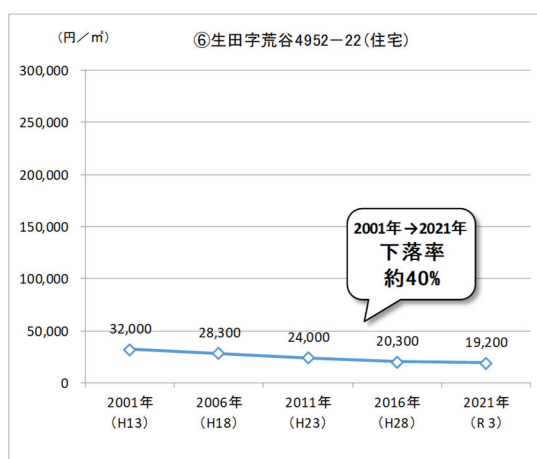
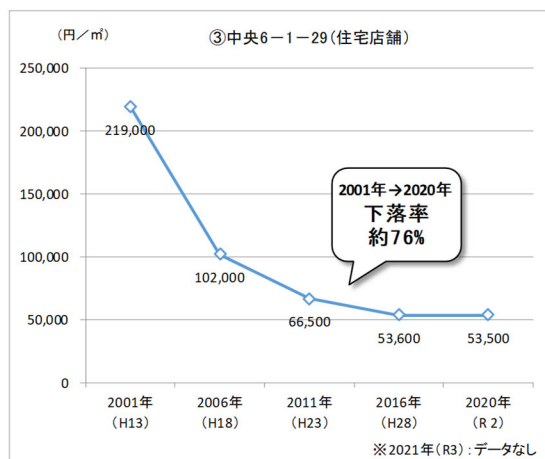
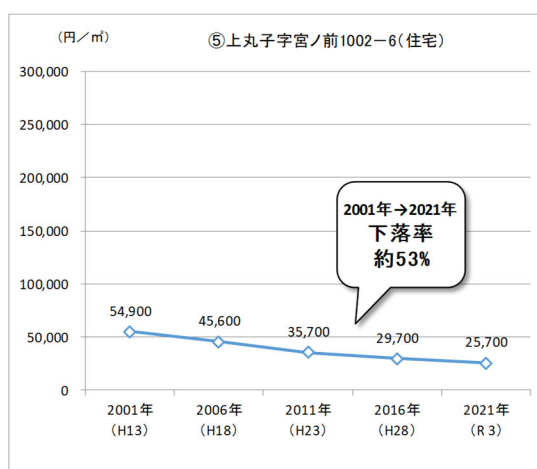
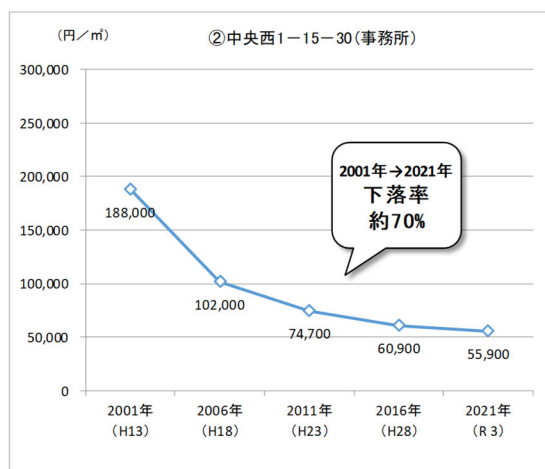
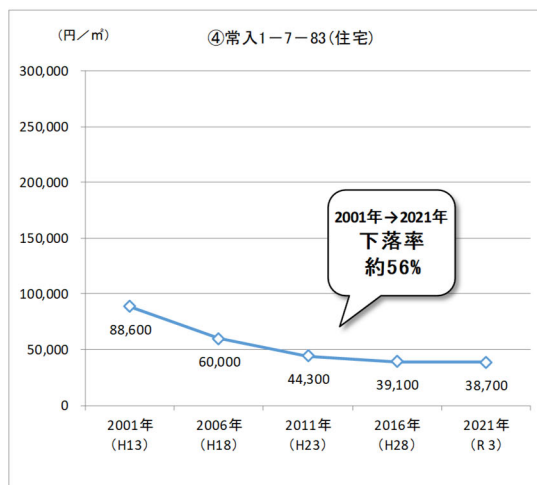
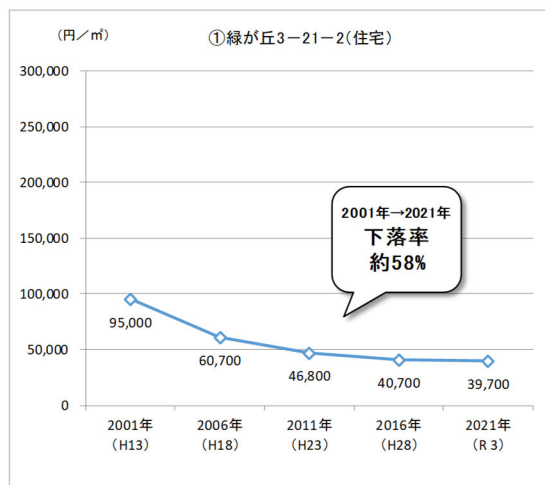
資料：開発事業届台帳

4-4 地価の動向

2001(平成13)年から2021(令和3)年の20年間における地価の推移を見ると、いずれの地点においても下落傾向となっています。特に本市中心部の地価下落が著しく70%~80%の下落率となっています。

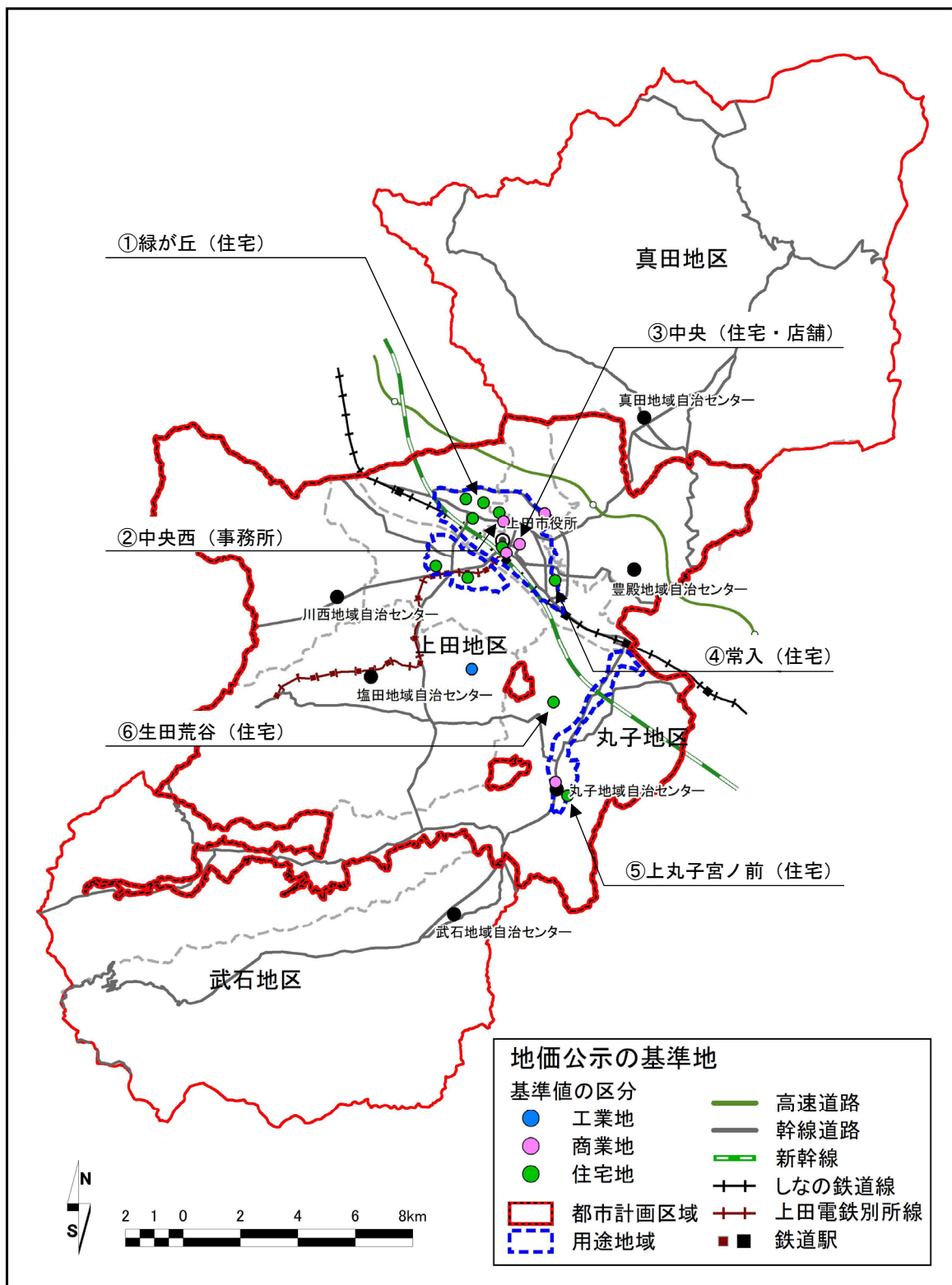
一方、郊外では中心部に比べて下落率がやや低くなっていることから、中心部と郊外部での地価の格差が縮小傾向にあると言えます。

長期的な下落傾向により固定資産評価額への影響が懸念され、安定した税収を目指した居住の誘導や都市機能の再整備など、地価の下落を抑止する施策の検討が課題です。



[図・地価の動向]

資料：長野県地価調査(各年7月1日)

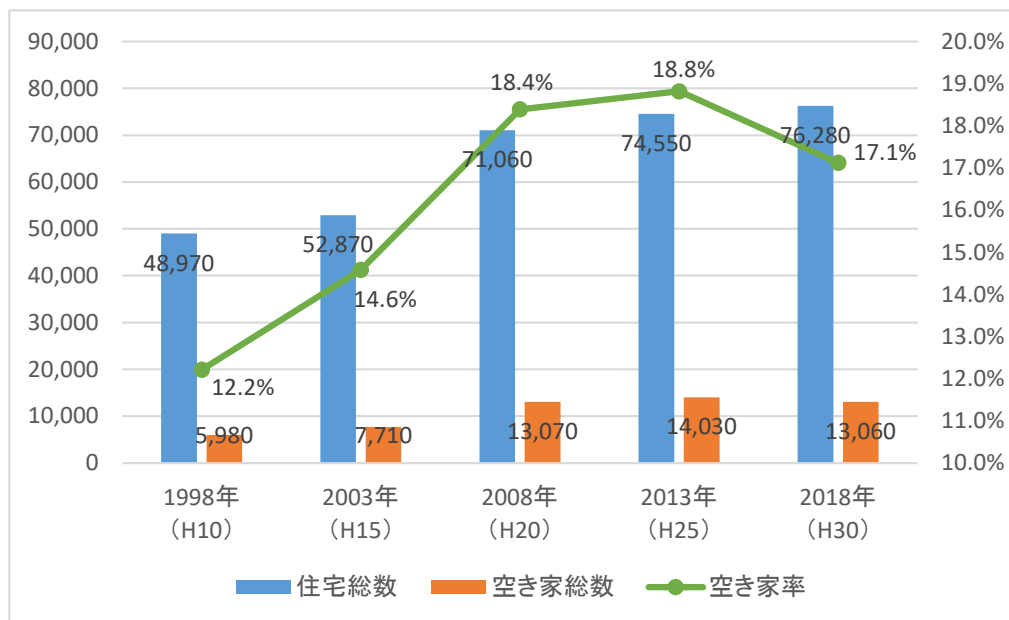


[図・地価公示の基準地]

資料：国土数値情報

4-5 空き家

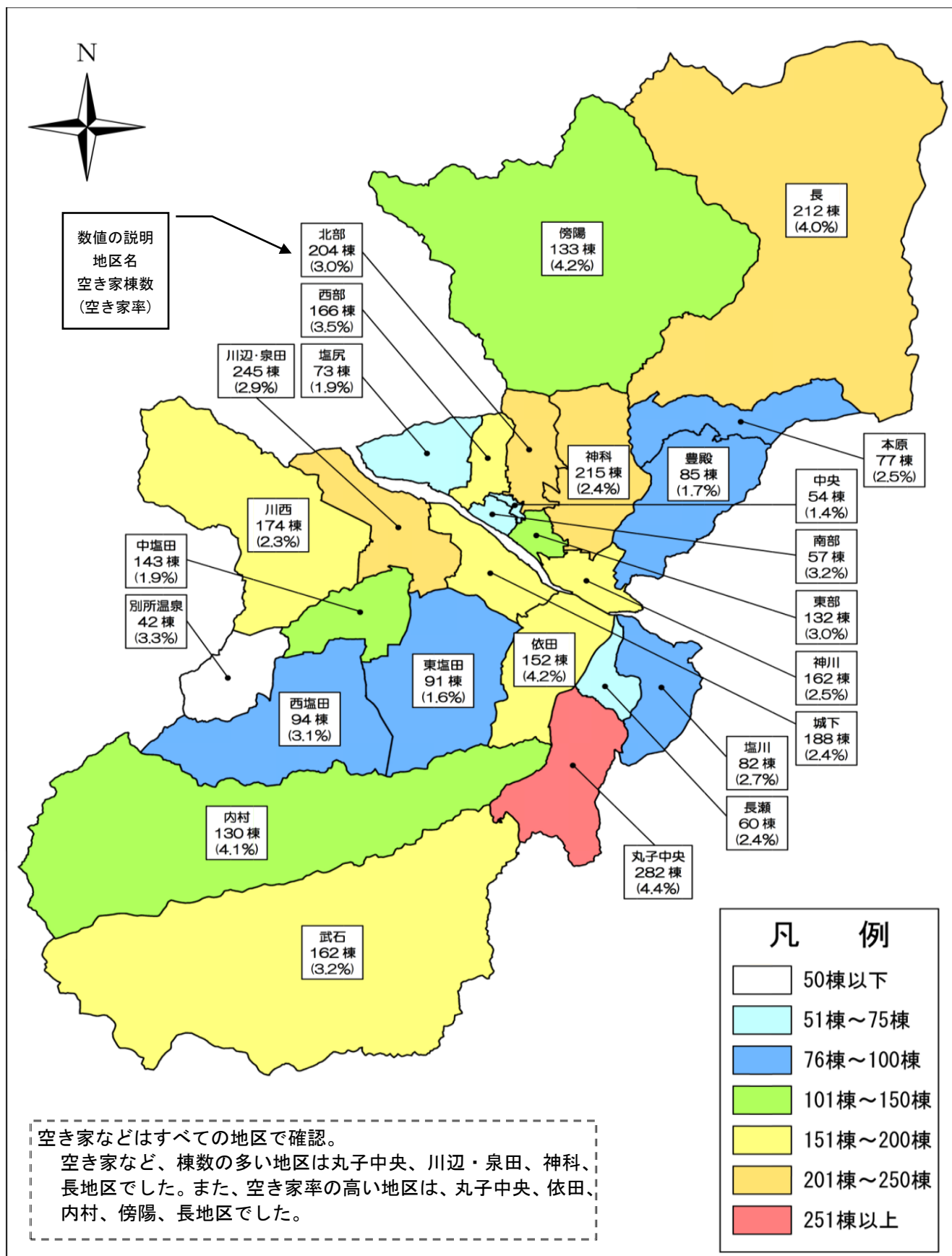
住宅・土地統計調査による1998（平成10）年から2018（平成30）年までの空き家総数などの推移を見ると、2013（平成25）年までは空き家数、空き家率は増加傾向にありましたが、2018（平成30）年では減少に転じました。



年次	1998年 (H10)	2003年 (H15)	2008年 (H20)	2013年 (H25)	2018年 (H30)
住宅総数	48,970	52,870	71,060	74,550	76,280
空き家総数	5,980	7,710	13,070	14,030	13,060
空き家率	12.2%	14.6%	18.4%	18.8%	17.1%

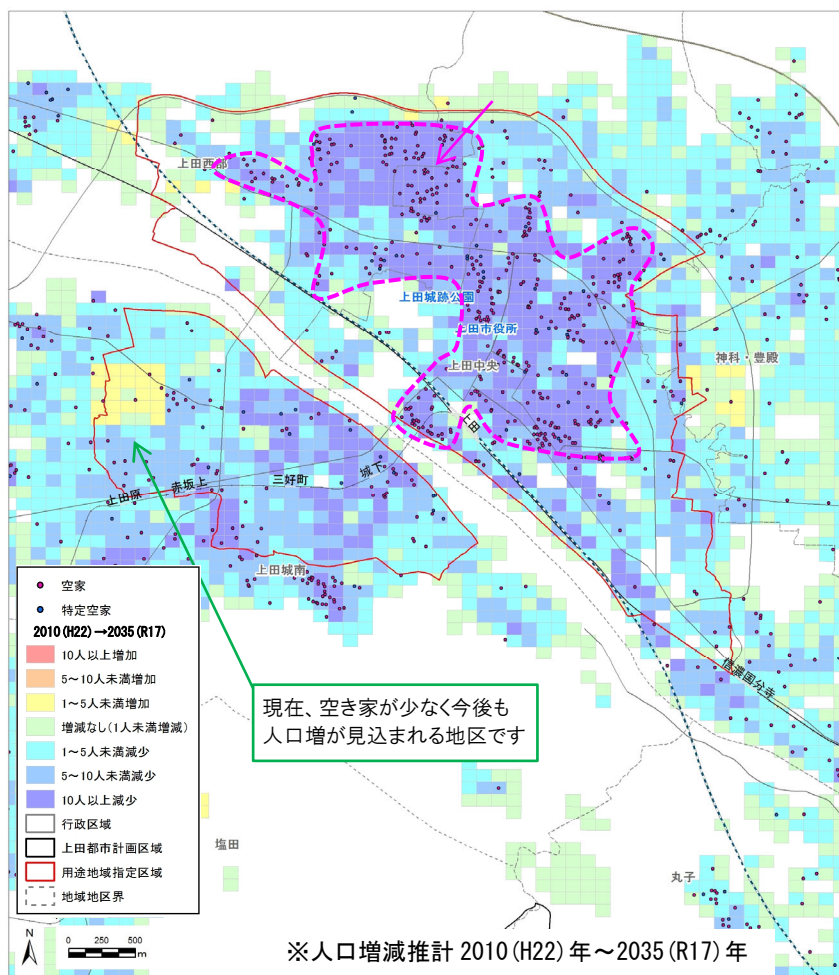
〔図表・空き家数の推移〕

資料：住宅・土地統計調査



[図・地区別の空き家率]

資料：R2 上田市空家等対策計画

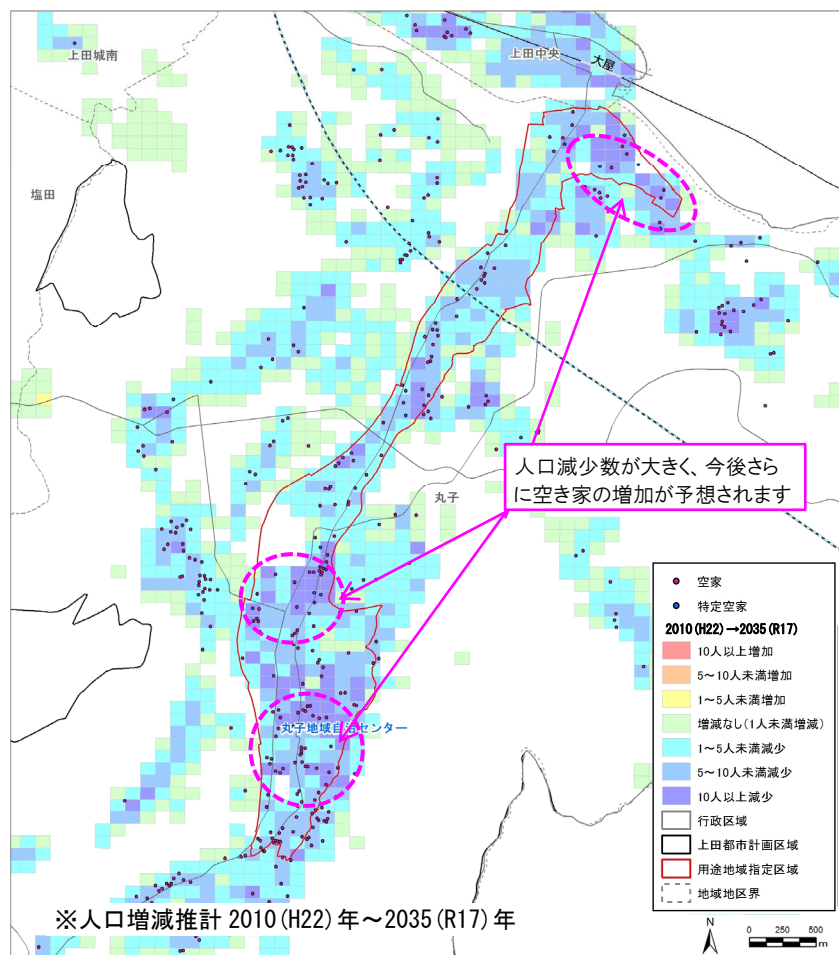


〔上田市街地の空き家状況〕

- ①空き家数と人口減少傾向は、概ね比例しており、人口減少数が多い地区は空き家が多く発生しています。
- ②空き家が少ない地区は人口が微増しています。
- ③都市機能が集中する右岸地域において都市のスポンジ化が生じています。

〔丸子市街地の空き家状況〕

- ④人口減少数が多い地区は空き家の増加が危惧されます。
- ⑤丸子地域の空き家数は282棟、空き家率4.4%は市内で最も多い数値です。
- ⑥丸子地域は人口減少が著しく、並行して都市のスポンジ化も進行しています。



〔課 題〕

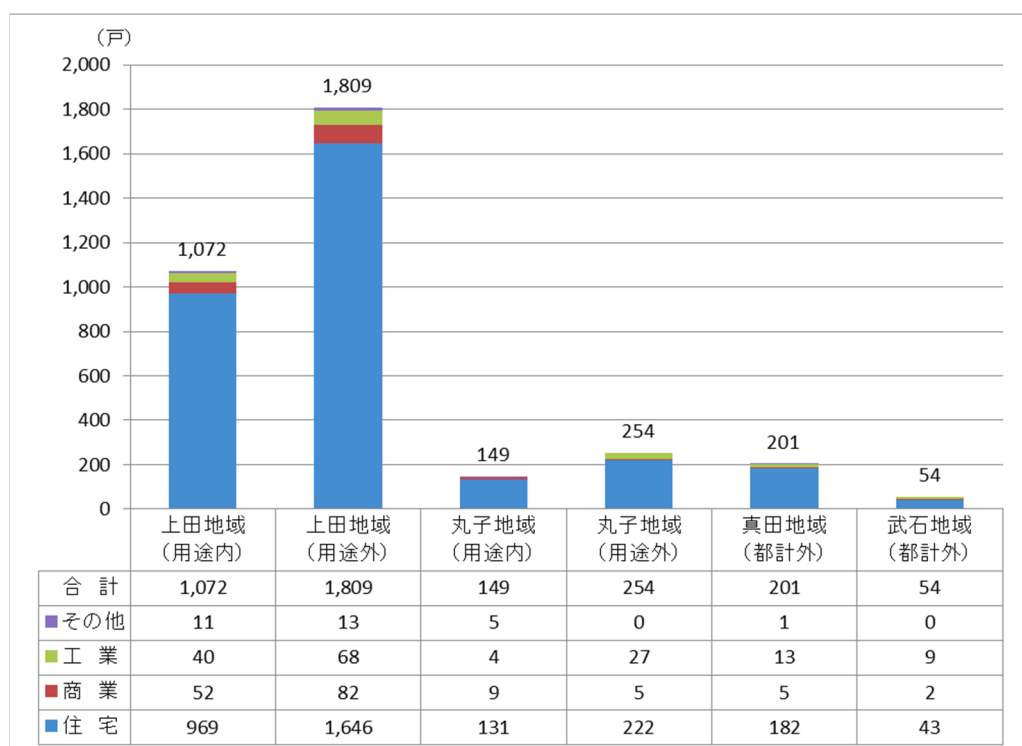
- ◆空き家などとして所有者にデメリットが生じる仕組みなどを検討する必要があります。
- ◆空き家などに関する不動産取引の活性化が課題です。
- ◆空き家などを活用したい人が活用し易くするため、官民が情報を共有し、協働して不動産取引を活性化、空き家などの不動産取引を生業として地域に根付かせる仕組みを作ることが課題です。

4-6 新築動向

都市計画基礎調査（2021（令和3）年）による2016（平成28）年から2020（令和2）年までの地域別新築戸数の累計推移を見ると、上田地域の用途地域外が最も多く、次いで上田地域の用途地域内となっています。

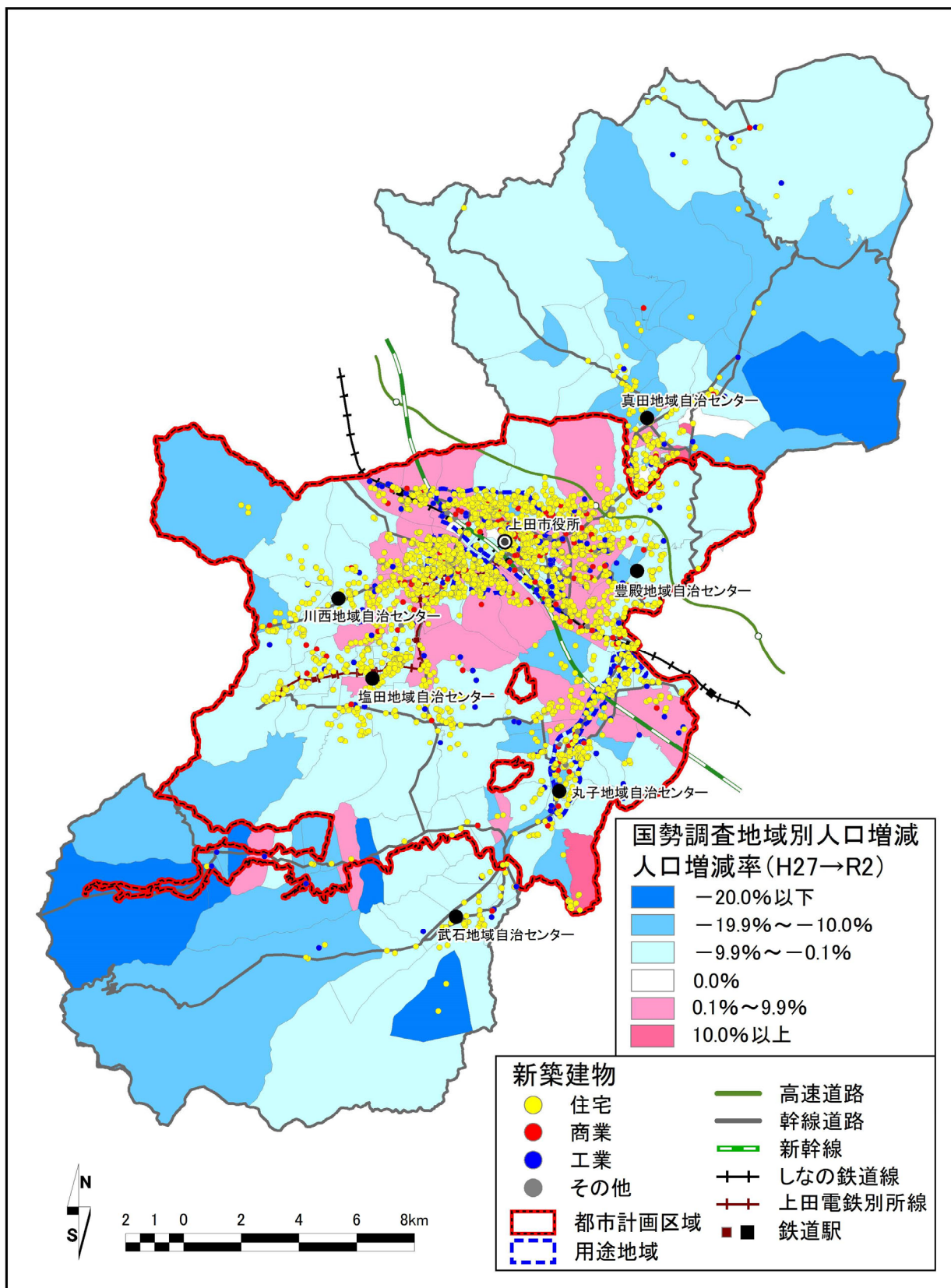
丸子地域も含め用途地域外の方が用途地域内より件数が多くなっており、市街地の拡大や都市のスポンジ化の進行が懸念されます。

次頁に示すように、2015（平成27）年～2020（令和2）年の国勢調査による地区別人口増減率と新築家屋立地状況を重ね合わせて見ると、上田用途地域周辺においては、用途地域外の下塩尻、上塩尻、秋和、下之条、中之条、諏訪形、住吉、古里、国分地区など、丸子用途地域周辺においては生田飯沼地区など、人口増減率が高くなった地区への立地が目立っています。



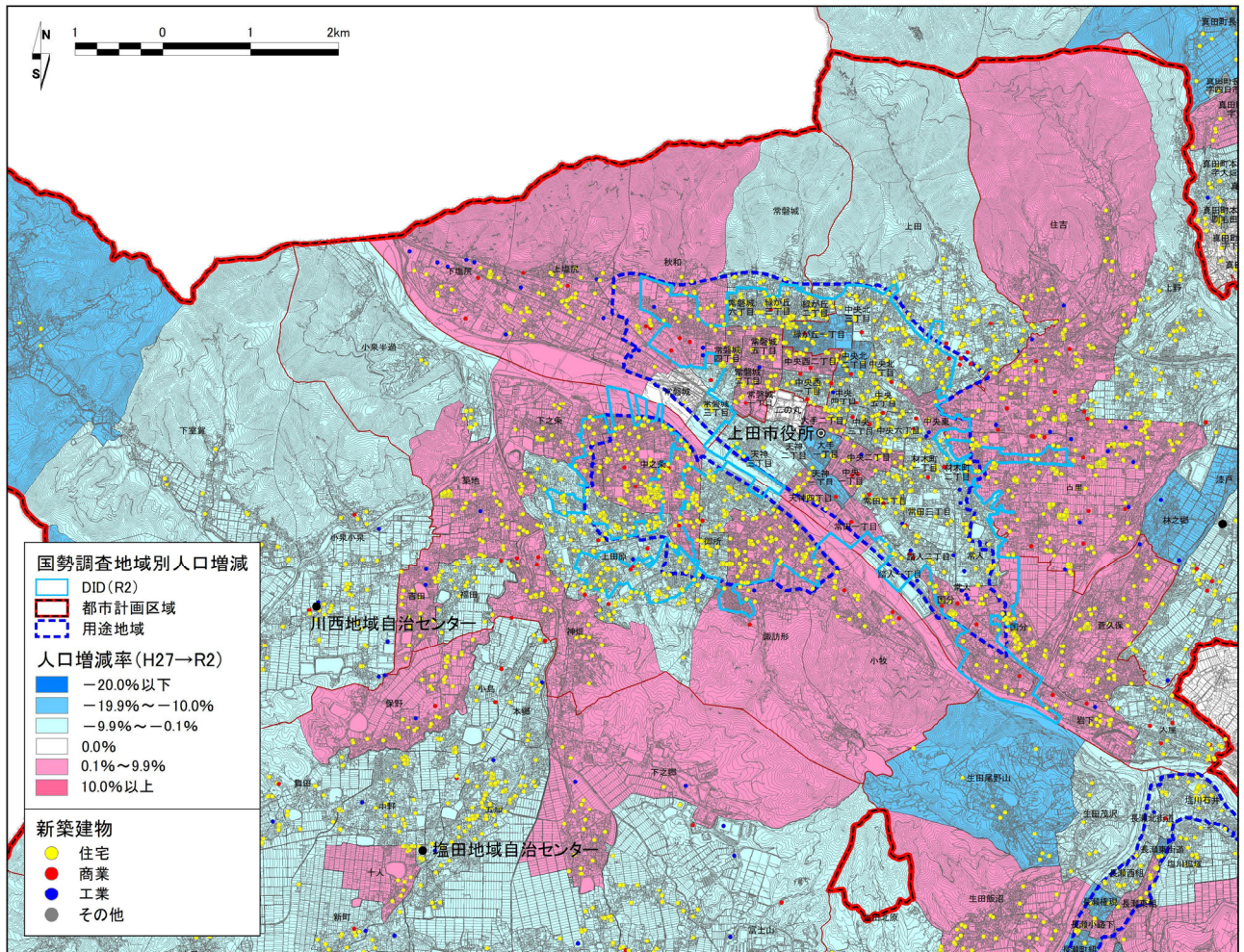
[図表・新築動向（2016（H28）年～2020（R2）年）]

資料：R3 都市計画基礎調査



[図・新築建物分布状況]

資料：国勢調査、R3 都市計画基礎調査



〔図・地域別人口増減、新築建物〕（上田用途地域周辺）

資料：国勢調査、R3 都市計画基礎調査

5. 都市施設

5-1 面整備

(1) 土地区画整理事業

土地区画整理事業の実施状況は、計7地区において合計約105ha実施済みです。

千曲川を擁する本市はそこに流れ込む多くの支流の存在や河川沿いの低地部に位置する市街地も多くあることから、たびたび大雨や台風被害に見舞われています。

[表・土地区画整理事業の状況]

	地区名	都市計画決定		認可当初事業計画	施行年度	備 考
	施行者	告示/年月日	面積/目的	認可最終(変更)事業計画	施行面積	
1	東部第一	建設省第2514号	21.3ha	S35.6.3	S35~S38	
	上田市	S31.12.17	新市街地造成	S38.3.29	218,907㎡	
2	天神			S13.9.28	S13~S24	
	組合		新市街地造成		106,562㎡	
3	常入			S15.2.23	S14~S21	
	組合		新市街地造成		253,016㎡	
4	国分			S60.3.4	S59~S61	
	個人		新市街地造成	S61.1.28	17,995㎡	
5	柿ノ木			H5.8.2	H5~H10	
	組合		新市街地造成	H10.9.10	58,926㎡	
6	秋和常磐城	上田市第15号	18.9ha	H10.1.16	H9~H18	組合解散
	組合	H9.3.12	新市街地造成	H18.2.24(解散)	189,642㎡	
7	天神三丁目			H20.2.8	H20~H23	
	個人		JT工場跡地再開発地区	H23.9.22	205,290㎡	

資料：令和5年上田市の都市計画（資料版）

(2) 市街地開発事業

市街地開発事業は、上田駅お城口地区において第二種市街地再開発事業（約2.3ha）が実施されています。

[表・市街地開発事業の状況]

都市計画の名称	位 置	面 積	都市計画決定
上田駅お城口地区 第二種市街地再開発事業	上田市天神一丁目 及び中央一丁目の各一部	約2.3ha	H9.7.10 長野県第449号

資料：令和5年上田市の都市計画（資料版）

5-2 都市計画道路

都市計画道路の計画延長は99,047m、実施延長は40,630mで整備率は約41.0%となっています。

[表・都市計画道路の整備状況]

路線名	主な計画内容			実施の状況		摘 要
	総延長 (m)	幅 員 (m)	その他	初年 度	実施済 延長 (m)	
(上田地域)						
3.3.1上田篠ノ井線	15,880	25(16~114)	上田大橋	S57	-	国道上田篠ノ井バイパス
3.3.2下之条吉田線	1,790	25			1,790	国道143号バイパス
3.3.3吉田富士山線	8,070	27(20~41)			1,140	一部国道144号
3.3.4諏訪部伊勢山線	6,380	25(12~25)			3,390	
3.4.5上田駅大星線	2,120	18		S35	1,780	一部国道141号
3.4.6下塩尻大屋線	12,270	16(12~16)		S45	770	国道18号
3.4.7上田駅川原柳線	1,360	16(16~18)		H2	420	一部主要地方道小諸上田線
3.4.8秋和踏入線	4,080	16(12~22)	広場8,800㎡	S43	4,080	一部主要地方道長野上田線
3.4.9生塚新田線	1,700	16			470	
3.4.10秋和神畑線	5,570	16(8~38)	古舟橋	S39	4,400	主要地方道上田丸子線
3.4.11南天神町常田線	870	16		H3	870	
3.4.12上田駅南駅前線	50	20	広場6,000㎡	H3	50	
3.4.13中常田小牧線	1,070	16(14.5~21)	常田新橋		1,070	
3.5.14松尾町踏入線	1,960	15			1,610	国道141号
3.5.16上堀大屋線	4,100	12			1,980	
3.5.17北天神町古吉町線	4,950	12(12~16)	上田橋		1,920	国道143号、主要地方道長野上田線
3.5.18小牧下之条線	4,390	12(12~16)			-	一部主要地方道長野上田線
3.5.19秋和1号線	440	12			-	
3.6.24北天神町緑が丘線	1,410	11(11~13)		S41	1,150	
3.4.25大手町材木町線	1,840	16(16~18)		S41	1,360	一部主要地方道小諸上田線
3.6.26中常田岩門線	2,490	8(8~16)			1,630	一部主要地方道小諸上田線
8.7.1上田駅橋上線	90	6		S63	90	上田駅前広場南北連絡通路
8.7.2柳町紺屋町線	680	6		H15	680	
(丸子地域)						
3.5.21腰越石井線	6,530	15		S42	1,990	国道152号 (L=2,830m)
3.5.22長瀬飯沼線	270	12			-	
3.5.23芦田大屋停車場線	907	12			760	県道芦田大屋線 (L=907m)
3.6.28長瀬腰越線	4,560	11		S27	4,560	国道152号 (L=1,870m)
3.6.29鹿教湯丸子線	270	11			270	県道丸子北御牧東部線 (L=290m)
3.6.30中之道川原線	140	11		S33	-	県道荻窪丸子線、
3.6.31別所丸子線	450	11			450	県道丸子北御牧東部線
3.6.32芦田丸子線	410	11			-	主要地方道別所丸子線 (L=310m)
3.6.33大屋長瀬線	1,950	9		S34	1,950	国道152号 (L=1,956m)
合 計	99,047				40,630	41.0%

資料：令和5年上田市の都市計画（資料版）

5-3 都市公園

都市公園の整備状況を見ると、街区公園が33箇所、7.83ha、近隣公園が7箇所、11.77ha、地区公園が6箇所、38.2ha、総合公園が3箇所、81.9ha、運動公園が2箇所、29.8ha、特殊公園が2箇所、17.5ha、都市緑地が3箇所、16.6haと、合計56箇所、203.6haが整備されています。

計画決定面積は120.7haで、開設面積は203.6ha（都市計画公園の開設面積115.45ha）であり、整備率は96%となっています。

本市の都市計画区域内の一人あたり都市公園面積は14.4㎡/人であり、長野県とほぼ同じ値となっています。

[表・都市公園の整備状況]

施設区分		計 画				開 設			
		園数	面積 (ha)	都市計画 公園	面積 (ha)	園数	面積 (ha)	都市計画 公園	面積 (ha)
住区 基幹 公園	街区公園	33	8.18	22	5	33	7.83	22	4.65
	近隣公園	7	11.77	1	1.3	7	11.77	1	1.3
	地区公園	6	38.2	4	25.1	6	38.2	4	25.1
都市 基幹 公園	総合公園	3	84	3	44.5	3	81.9	3	42.4
	運動公園	2	32.6	2	32.6	2	29.8	2	29.8
特殊 公園	風致公園	1	2.1	0	0.0	1	2.1	0	0.0
	歴史公園	1	15.4	0	0.0	1	15.4	0	0.0
都市緑地		3	16.6	2	12.2	3	16.6	2	12.2
計		56	207.85	34	120.7	56	203.6	34	115.45

資料：令和5年上田市の都市計画（資料版）

[表・一人当たり面積]

上田市都市計画区域内一人あたり都市公園面積	14.4㎡
令和2年度末 長野県一人あたり都市公園面積	14.9㎡

[写真・長池公園（近隣公園）]



[写真・市民の森公園（総合公園）]



資料：上田市 HP

5-4 上下水道

(1) 上水道

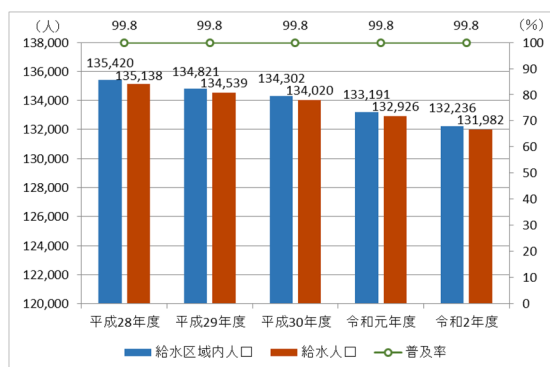
本市の大半は上田市水道事業の給水区域となっています。

塩田地区、仁古田地区及び小泉地区の一部は長野県企業局（県営水道）の給水区域です。

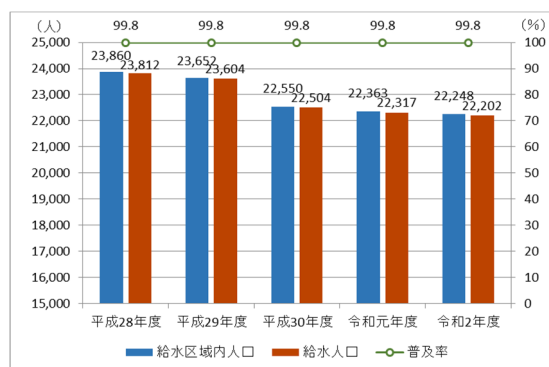
また、ほかに7つの水道事業（私営の専用水道等）があり、市の一部に給水を行っています。

2020（令和2）年度における市営の給水区域内人口は132,236人で、給水人口は131,982人であり、普及率は99.8%となっており、普及率は経年的に高い水準を維持しています。

また、同様に県営の給水区域内人口は22,248人で、給水人口は22,202人であり、普及率は99.8%となっています。こちらも高い水準で推移しています。

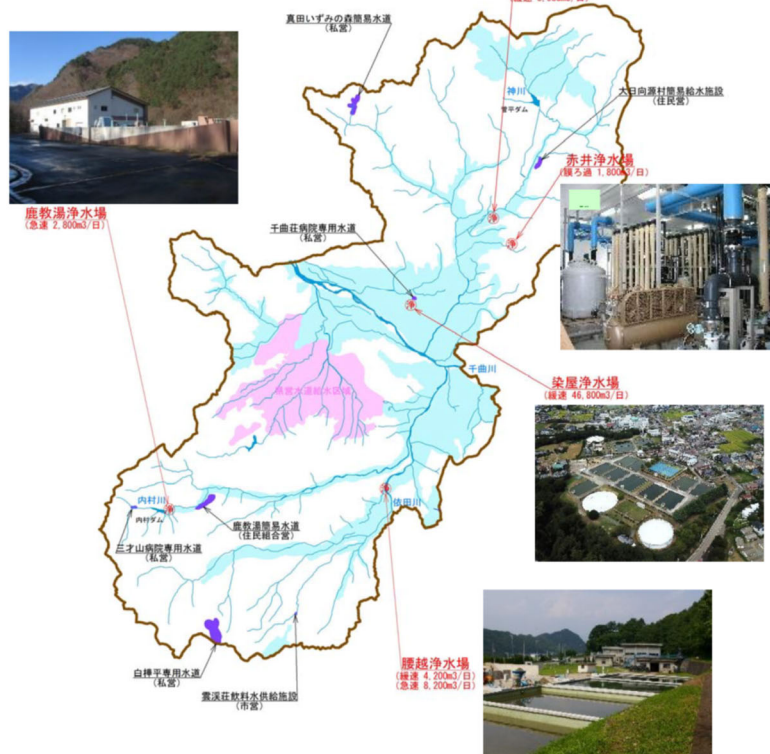


〔図・給水区域内人口・給水人口・普及率〕（市営）



〔図・給水区域内人口・給水人口・普及率〕（県営）

凡 例	計画給水人口 （計画年度末人口）	計画日最大給水量
上田市上水道 給水区域	135,000人 （134,539人）	57,600m ³ /日
県営水道 給水区域	24,970人 （23,265人）	11,900m ³ /日
その他の水道 給水区域	2,203人	1,449m ³ /日
浄水場（市営）		



〔図・給水区域〕

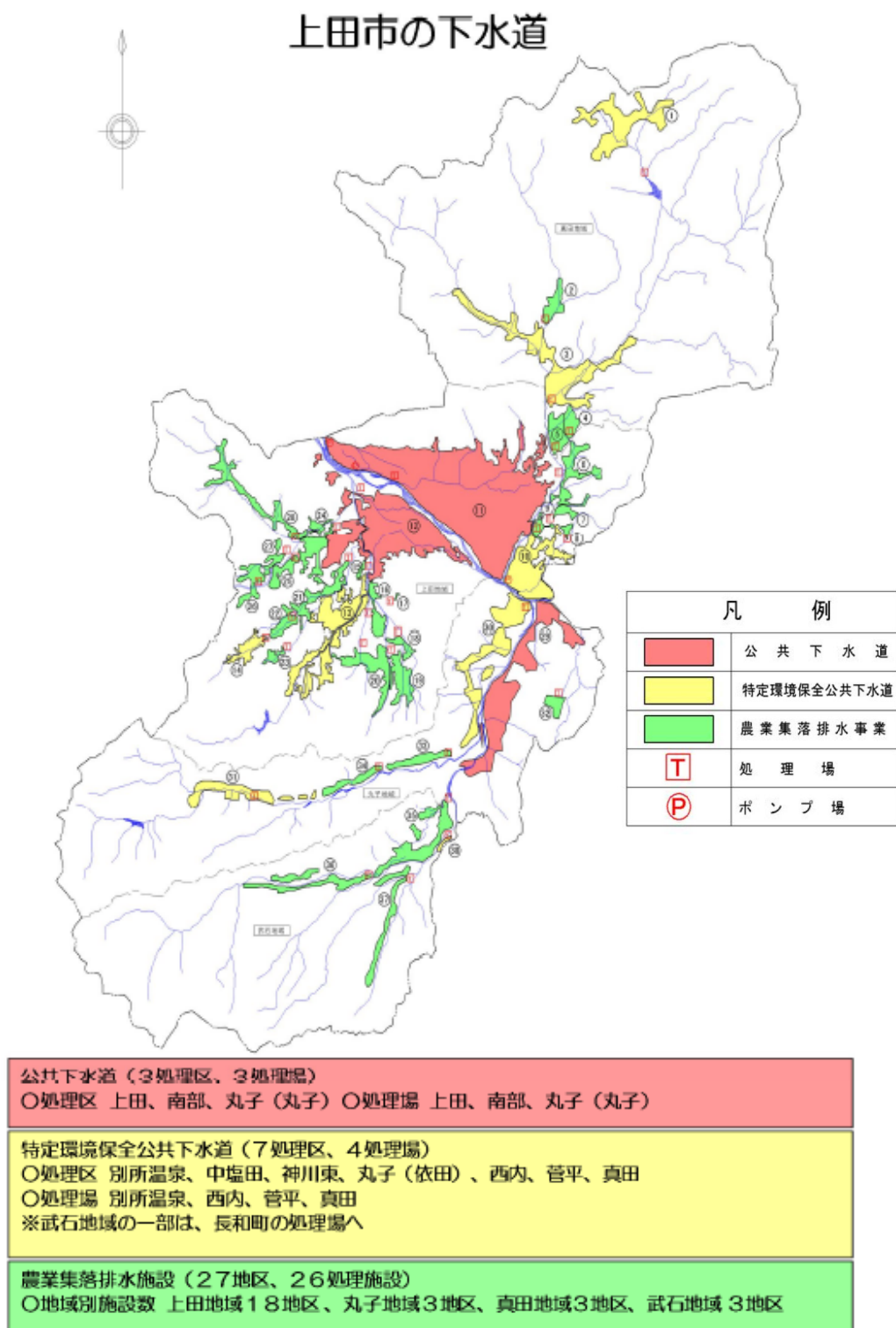
資料：上田市水道ビジョン 2019～2028 年度

(2) 下水道

公共下水道事業を実施しているのは、上田地域、丸子地域及び真田地域の3地域です。

処理区数は3地域で9処理区となり、うち公共下水道関連の特定環境保全公共下水道が2処理区あります。

処理場数は7処理場となり、計画処理区域は4,453ha、計画人口は122,300人です。



〔図・公共下水道等整備状況〕

資料：上田市下水道ビジョン